

京	都	府
1・21 観世流謡曲研究「観遊社」の発会。 日出 1・24		7・1 松竹は所有の「歌舞伎座」「ミカド館」「第一千代館」「第二千代館」と大阪の「朝日座」と1年12万円で日本活動写真(株)に貸与、横田商会の直営に帰す。 日出 7・4
1・30 「南大正座」が大宮八条下ルに竣工柿落し。 日出 1・31		7・11 有栖川宮薨去につき、各興行物は3日間休場す。 日出 7・12
2・1 故井上八郎左衛門33回忌の追善能楽(片山能楽堂)。 日出 1・24		8・7 諒闇で延期されていた祇園会が行われ山鉦巡行す。 日出 8・7
2・14 京都座で羽左衛門、段四郎、猿之助、亀蔵らの東京歌舞伎が松竹と提携して公演、代りに雁次郎らの大阪歌舞伎が東京で公演。 日出 2・8		8・21 関西劇術研究会は市中での第1回公演を前に大津稲荷座で開演。 日出 8・14
2・一 大寅座は座主小林と横田商会との合資で改築をなし「帝国館」と改名、活動写真館となる。なお大寅座は以前の位置に戻り、そのオペラ館を改築して再登場。 日出 2・18		8・一 静間小次郎らの新派連を中心に、「関西興芸会」が結成され通俗教育と趣味養成を目的として広く一般に会員を募集。 日出 8・24
2・一 日出新聞にこの頃の劇場を紹介。 <sup>(1)</sup> 日出 2・12~19		8・一 夷谷座の喜劇飄々会は、大阪より名古屋、東京公演を果して帰京。 日出 8・30
3・10 竣工成った祇甲歌舞練場の舞台開き。 日出 3・4		9・27 旧絃養会の祇甲長唄研究会は、新たに「絃声会」と命名、第一回演奏会を開く。 日出 9・29
3・21~25 南座において文芸協会の「思い出」公演。 日出 3・18		9・29・30 関西劇術研究会の第1回公演を明治座でハウプトマンの「僧房夢(エルガ)」を上演。(批評は舞台の統一を欠く、科白が無節の朗読である、動きにおいて形の変化がないとのきびしいもの)。 日出 9・29、10・1
4・一 京都在住の青年美術家を中心に「関西劇術研究会」が結成さる。主幹は彫刻家奥野香円齋。 日出 4・4		10・3 京都の活動写真弁士によって組織された京都弁士会は河原町共楽館において発会。 日出 10・3
4・3~7 諸流活花大会を高島屋に開催。(200点3日間の入場者約1,000名、その中外人200名)。桑原専慶、池坊、嵯峨末生、松月堂古、青山、都末生、月泉、五明、古遠州、正風遠州、美生、新遠州、末生の各流出展。 日出 4・6		10・22 不審庵再興、旧規に忠実に再築され11月より連日茶会開催。 茶道月報 昭25・7
4・6 故尾崎正作33回忌の追善能楽会(金剛能楽堂)。 日出 4・4		11・2 小川頭今日庵において千家の3世宗旦忌修される。 日出 11・3
4・一 毎年4月21日の御影供当日に催される島原遊廊の大夫道中は、諒闇中のため秋まで延期。 日出 2・8		11・8~17 河合、小織らによって結成れた「公衆劇団」の京都公演は明治座において「マクベスの稽古」「茶を作る家」「エレクトラ」「女がた」を上演。入場料は1等1円、2等65銭、3等35銭、4等15銭。 日出 11・4
5・11 京都大学好楽会第3回演奏会が近代劇協会と帝国劇場歌劇部を聘して学生集会所において催される。 日出 5・13		12・1 10万円をかけて7月から大改築の南座、新築成って恒例の顔見世開場。 <sup>(1)</sup> 日出 11・27
5・26 市川齋入、石団次、嵐巖笑、実川八百蔵、浅尾関十郎、嵐村石衛門ら90余名は鳥取地方の巡業の帰途に舞鶴の舞鶴座において開演。福知山、綾部、新舞鶴よりの者は片道の汽車賃、余部、宮津よりの者は片道の汽船賃の割戻しを行う。 日出 5・28		
6・1 七条都座改築竣工成り開場。 日出 6・1		
6・11 祇甲女紅場の舞踊教師、木村政、高橋八重は、舞踊研究の目的で「和楽会」を結成、第1回を歌舞練場において開く。 日出		
6・27 解散していた祇甲の絃養会は「長唄研究会」として再発足。 日出 6・29		

参	考	日	本
(1)	南座の構造を挙げると、位置は京都市下京区四条通大和大路西入中の町198番地で、敷地総坪数353坪6合6勺、その内建坪319坪、総て木造の日本建で、檜を有する破風造りとして、昔の名残を偲ばせている。それから表口が9間、裏口が10間、奥行が29間で舞台は総て119坪、その間口11間、天地3間、廻り舞台は大廻り7間3尺、中廻り5間6尺、観覧席は階下96坪、階上52坪、定員1,436名、そのうち階下996名、階上440名で別に休憩室と食堂の設備がある。 堂本寒星：南座		1・15 ゲーテ作・森鷗外訳<ファウスト>第1部〔戯〕(第2部、3・22刊。3・27~3・31近代劇協会により帝劇で初演)。 2・1 マイエル=フェルステル作・松居松葉訳<思ひ出>〔アルト=ハイデルベルヒ〕初演(有楽座、文芸協会、~2・14)。 2・2 帝劇歌劇部、<夜の森>上演(ヘンゼルとグレーテル)の翻案、~2・26)。 3・一 岡本綺堂<室町御所>初演(本郷座、2世市川左団次主演)。 5・1 武田正憲・2世市川猿之助らの吾声会第1回公演。イブセン作・森田草平訳<鴨>を上演(有楽座、~5・5)。 5・一 市川猿之助らの吾声会、第1回公演、「野鴨」初演。 6・1 サルドウ作・松居松葉訳<トスカ>上演(帝劇、ローシー指導で川上貞奴・7世松本幸四郎ら出演、~6・25)。 6・1 モーツァルト(魔笛)(小林愛雄訳)第2場のみ上演(帝劇歌劇部、原信子ら、~6・25)。 6・26 シェイクスピア作・坪内逍遙訳<チェーリヤス=シーザー>初演(帝劇、文芸協会最終公演、~7・2)。 7・15 宝塚唱歌隊設立(第1期生25人、12月、宝塚少女歌劇養成会と改称、19年1月、宝塚音楽歌劇学校となる)。 7・24 市川九女八〔守佳月華〕没(弘化3生、68歳、女役者)。 7・31 3世竹本大隅太夫没(嘉永7生、60歳、義太夫節太夫)。 8・8 東京歌舞伎座、松竹合名社の大谷竹次郎の経営となる。 9・19 芸術座第1回公演、メーテルリンク作抱月訳<モンナ=ヴァンナ>ほか上演(有楽座、~9・28)。 10・1 河合武雄・松居松葉らの公衆劇団第1回公演、松葉作<茶を作る家>初演(帝劇、~10・20)。 10・一 映画雑誌<フィルム=レコード>創刊(のち<キネマレコード>、~17年12月)。 11・1 井上正夫、田端の佐竹邸で最初の野外劇、鏡花原作(紅玉)を上演。 11・一 加藤精一・河合武雄らの公衆劇第1回公演「悪魔の弟子」など。 12・2 ワイルド作・抱月訳<サロメ>初演(帝劇、芸術座、松井須磨子・沢田正二郎主演、~12・26)。 12・14 東京音楽学校第7回邦楽演奏会で各流古典を演奏(常磐津など)。

京	都	府
1・1 新京極に活動写真館「朝日倶楽部」新築落成開館。 日出 1・1	横田小林合名の帝国館の2館のみとなる。横田商會はパテー館の買収を交渉中、さらに大寅座を活動写真館に変更決定、俄は京都からその姿を消すに至り、座頭の芝雀は楽天會に加入、2代目正玉は帝国館の弁士となる。 日出 6・26	
1・1～7 エディソンの発明による蓄音機を連結したキネトフォンが南座で京都に初お目見得。入場料は1等80銭、2等50銭、3等40銭4等15銭。 <sup>(1)</sup> 同上	7・4 藤摩琵琶「皁生會」3周年記念大会。 日出 7・3	
2・15 京都声楽會は富小路六角下る生祥校において第1回演奏會を催す(この會は、活動を休止している京都音樂會に代り、東京方面よりの演奏會の開催の任にあたる)。 日出 2・13	7・18 第一八千代館改築落成、日本キネトフォン株式会社と特約して開館。 日出 7・17	
2・15 藤代素人のドイツ劇壇、島華水の英国劇壇、湯浅半月の米国劇壇についての中外劇談會、喜多村緑郎、河合武雄、藤沢浅次郎らを交えて府図書館にて開かれる。 日出 2・15	7・25 大寅座を改築、「富士館」と改称して開場、活動写真館となす。	
2・一 大正座開場以來月8狂言を作した松竹の作者賀古残夢入道は夷谷座の瓢々會に加入、夷谷座の中西羊髯が大正座の座附作者となる。また大正座の総監督に岩崎春禾が加入。 日出 2・19	8・20 西郷館は再び旧名「朝日倶楽部」に改称、主任弁士も西郷了堂から桜田春曉に変わる。 日出 8・21	
2・一 明治座でキネマカラーとは別種の、普通写真と同回転数を持つ「コルジューム」式の天然色写真の公開。 日出 2・26	9・1 大正座は女優團を新結成して開場、幕間に活動写真を入れて客集めの新工夫。入場料は10銭。 日出 8・29	
3・1 京極蛸薬師下る西側の当昇亭は「豊梅亭」と改称、講談を中心に興行。 日出	10・22 時代祭、山国隊は三年目毎に参加する例にならぬ参加。 日出 10・19	
3・7 明治45・6 開館の京都国技館が解散となる。 日出 3・16	11・1 寄席の芦辺館は了平、円六、扇之助、玉団治、三八、小文三、柳昇、文吾、円坊、花咲、一奴、染丸という面々。笑福亭には、円之助、権輔、芝染、先太郎、ぼん太、枝鷹、とんぼ、桃太郎、円笑、可笑、可祝、円歌、枝太郎、福円、枝雀、福松郎、文之助という面々で開演。	
3・13 当地伍友會創立25年記念開茶會が催される。 日出 3・12	11・7 東京俳優學校第1期卒業生の近藤主弥が主宰する独立劇場は、イプセンの「幽霊」、チエホフの「熊」を第1回試演會、三条青年會館で催す。會費は50銭と30銭。 日出 11・3	
3・21～27 南座に泉祐三郎の今様能狂言が、普通興行としては13年振りで開演。 日出 3・20	11・15 芸術座の南座公演、シェイクスピア作及び島村抱月改作の「アントニーとクレオパトラ」、中村吉蔵作「剃刀」。 日出 11・13	
4・24～28 松井須磨子、武田正憲、中井哲、田辺若男、勝見庸太郎、活野雪子らの芸術座、南座でトルストイの「復活」を公演。 <sup>(2)</sup> 日出 4・18	11・15 京都座で興行の山田九州男一座は連鎖劇「柵(しがらみ)」公演。 同上	
4・末 活動写真館朝日倶楽部は「西郷館」と改称。 日出 2・29	11・18 第一八千代館、日本キネトフォンと特約し日活と結んで興行。 日出 11・18	
5・2 吉本権次郎没。(松竹合名会社の支配人として多年興行界に尽した)。 日出 6・4	11・20～22 芸術座は芝題替えて「復活」と「ディオゲネスの誘惑」を公演。 日出	
5・11 金井芳松没。芦辺館の前身幾代の席主として京都落語界に功勞があった。 日出 5・13	11・30 大正座閉場。女優劇團は西陣の岩神座にて興行。 日出	
5・15～17 関西劇術研究會を改称した奥野香之輔らの「関西劇場」は、三条青年會館にてイプセンの「小さきアイヨルフ」、ボンの「ジオゲネスの誘惑」を公演。 同上	12・5 独立劇場の第2回公演。ストリンドベリ「父親」、佐竹霞水「寂しき舞台へ」を三条青年會館において開演。 <sup>(3)</sup>	
6・末 女優劇團中心の大正座は、今月をもって既成劇團を一時解散、以後は女優劇にとらわれない興行方針。 日出 6・25	12・15 活動写真館朝日倶楽部は開館1周年記念に東京より近代劇を聘し、田中栄三の卒いる松島千鳥一行が「チョコレートの兵隊」、「レーン」を上演。	
7・初 歌舞伎座、みかど館、第一、第二八千代館は、いずれも松竹の直営、或は東洋天然色との特約のもとに興行。日活系統は直営の中央館と		

参	考	日	本
(1) 「エディソンが蓄音機を連結したキネトフォン“Kinetophone”の考案を発表したのは、1913(大2)年1月である。キネトフォンは、直径4インチ長さ8インチの臘管式音盤を発声機部とし、この発声機部を小さなモーターで回転させ、モーターと映写機にベルトを連結し、両者のシンクロナイズを図ったところに特許があった。」(「日本映画発達史卷I」より)、この権利を買って日本キネトフォン株式会社は、日本トーキーの製作にとりかかったが、「音盤の発音が低いことと、臘管一個についてフィルム400フィート、約10分間の映写が精々だというような、種々の機械的制約にたたられて、一時的興行としては普及力が狭」(前掲書)だった。		1・26 無名會第1回公演、シェイクスピア作・池田大伍訳、監督<オセロー>上演(帝劇、東儀鉄笛ら出演、～1・31)。	
(2) 芸術座松井須磨子中心の「復活」は、劇中の、松井須磨子の歌う「カチューシャの唄」が大流行となって興行的にも成功を収めた。のみならず、カチューシャに因んだ結髪や装身具まで流行。五条大宮の東洋蓄音器株式会社のオリエント・レコードは、9月には会社解散まで追いつめられたが、このカチューシャの唄のレコードを売出し、2万枚を売り尽し収益をあげた。前述の日本キネトフォンも同じように須磨子のカチューシャの唄で活況を呈したのである。		2・13 山田耕筈アーベント開催(築地精養軒、<嘆><樹立><ふるさとの>ほか、外山国彦・三浦環・船橋栄吉出演)。	
(3) この年に試演を含めて2回の公演を行った新劇団独立劇場は、悪評甚しく、期待していた識者たちを失望せしめたようである。舞台裏のプロンプターの声で芝居が進行する様が、ありありと見てとれたと云う。入場者も100名程度の学生が、ほとんどであり、日出新聞批評からうかがうと昨年の関西劇場の活動の方が、緻密な出来であり真摯な態度であったと。		2・26 6世尾上菊五郎・長谷川時雨らの狂言座第1回公演、坪内逍遙(新曲浦島)ほか上演(帝劇、～2・28)。	
		3・1 林和・守田勘弥らの黒猫座第1回公演、ジュニツラー作<恋愛三昧>上演(有楽座、～3・5、のち文芸座に発展)。	
		3・17 小林喜三郎ら、英国キネマカラーの特許権を獲得し、天然色活動写真(株)〔天活〕創立、4・3最初の着色劇映画(義経千本桜)(吉野二郎監督)公開。	
		3・26 トルストイ作・抱月脚色<復活>初演(帝劇、芸術座、松井須磨子ほか、～3・31)、全国を巡演、解散までに440回上演、劇中の相馬御風作詞・中山晋平作曲(カチューシャの唄)流行(6月出版、15年レコード化、2万枚売れる)、10月映画化。	
		4・1 宝塚少女歌劇養成會第1回公演(北村季晴作曲の歌劇<ドンブラコ>、本居長世作曲の喜歌劇<浮れ達磨>など、宝塚新温泉内パラダイス劇場、～5・30)。	
		4・29 美術劇場第1回公演、秋田雨雀(埋れた春)初演(有楽座、～5・3、芸術座脱退の沢田正二郎・田中介二郎ら加入)。	
		4・一 日本楽器、ハーモニカ製造開始。	
		5・20 三浦環、欧州へ演奏旅行に出発。	
		7・12 日本キネトホン、<本朝二十四孝>ほか数種のキネトホン式(レコード式)発声映画を製作、有楽座で公開(～7・19)。	
		9・一 古河新水〔12世守田勘弥〕<安政奇聞 佃夜嵐>初演(市村座6世尾上菊五郎・初世中村吉右衛門ら出演)。	
		10・1 帝劇洋劇部、オフエンバックの喜歌劇<天国と地獄>上演(小林愛雄訳詩、ローシー指導、口語訳詞上演の最初、～10・25。歌劇部は、2月、洋劇部と改称)。	
		10・26 中村吉蔵<剃刀>初演(帝劇、芸術座、～10・31。8月<中央公論>に発表)。	
		11・21 吉井勇<俳諧享句楽の死>初演(市村座、狂言座、～11・23。4月<中央公論>に発表)。	
		12・6 山田耕筈、最初の管弦楽作品を発表(音詩<曼陀羅の華・交響曲<かちどきと平和>、東京フィルハーモニー會14回演奏會、帝劇)。	
		12・16 松本金太郎没(天保14生、72歳、宝生流シテ方)。	
		12・27 本居長世の小歌劇(夢)とお伽歌劇(月の国)上演(白木屋演芸場)。	
		この年 > 宮城道雄、洋楽をとり入れた最初の作<唐砧>〔箏曲〕を作曲。	

京	都	府
<p>1・8～12 伊庭孝、下山京子らのピイェム公演社(新劇社)は、南座において「チョコレート兵隊」,「出発前半時間」を公演。<sup>(1)</sup> 日出 1・7</p> <p>2・6～8 女流琵琶家管野草花、日出新聞記者らの「通人劇」と称する素人芝居が南座で公演人気を博す。 日出 1・31</p> <p>2・21 関西音楽会が主催して組織された大典記念音楽公演会第1回、青年会館において開催。 日出 2・16</p> <p>3・1 伏見(下大手京電停留所西入南側)に新築された「日吉座」、大阪若手歌舞伎の実川延丸らで開場。 日出 3・1</p> <p>3・22 能楽界大鼓の名手前川光隆没。 日出 3・24</p> <p>4・20 秋月桂太郎、明治座を離れて松竹から独立、岡本五郎、井上春之輔らと大阪で旗上げ。 日出 4・19</p> <p>5・1 京都座は連鎖劇専門劇場となり、平場を椅子席に改装して、久保田清らの連鎖劇で開場。 日出 4・21</p> <p>5・21～31 鴨川踊、東京歌舞伎座で公演。これには一部に相当な反対もあった。 日出 4・25</p> <p>5・25～30 芸術座、南座において「サロメ」公演。29・30日は「人形の家」と「熊」を公演。松井須磨子のサロメ風俗話題となる。日出 5・25</p> <p>5・31 旧みゆき館跡に新築の「第二勢国館」竣工。活動写真常設館として開館。 日出 5・31</p> <p>6・3～20 斎入の引退興行が延二郎、石団治芝雀、沢村源之助らで南座公演。1等1円50銭、2等80銭、3等50銭、4等20銭。 日出 5・28</p> <p>6・一 「日本座」(所在不明)は新に橋本座主となり発展準備中。 日出 6・20</p> <p>6・一 全国的な興行界の不振一般化す。京都は著しく停滞。 日出</p> <p>8・20 第二新京極天活会社直属の三反倶楽部より出火、大火となり同館と大正座など18戸を全半焼。歌舞伎座、八千代館は臨時休業。昼前の未開場時だったので怪我人はなかった。日出 8・21</p> <p>8・一 従来松竹白井の経営であった「夷谷座」は、大谷の手に移り、場内改装、従業員一新をして9月より開場。 日出 8・17</p> <p>8・一 従来天活が借受けて活動写真を中心に連鎖劇をやっていた「歌舞伎座」は、天活の期限切れと同時に経営者が変わり、静間小次郎一座を迎えて興行。大谷と天活とも再契約して幕間には活動写真を入れる。またこの時興行していた東京新派のトンボ会は解散して静間一座に加入。 日出 8・26</p>	<p>9・8 曾我廼家五郎一座は「平民劇団」と改称、本名を名乗り和田久一座として大阪中座で旗挙げ公演。 日出 9・6</p> <p>9・11 京桂派によって開演してきた落語席「笑福亭」は、大阪浪花反対派の買収するところとなり、京桂派も同時に買収せられて大阪に移動、笑福亭は反対派によって開演。 日出 9・8</p> <p>9・12 私立京都府衛生会主催の衛生演劇が西陣岩神座で開演、好評を博す。この後千本三条の国技館で15日間無料解放。 日出 9・14</p> <p>11・7 鴨川踊開催。 日出 11・9</p> <p>11・8 都踊開催。 同上</p> <p>11・12 時代祭、大典のため延期報行。 日出</p> <p>11・14 大當祭のため、南座の曾我廼家、夷谷座の瓢々会は休演、歌舞伎座、京都座をはじめ新京極一帯の各館とも夜は休演。 日出 11・14</p> <p>11・15～26 市民の大典奉祝万歳踊。26日は仮装踊、27日は紅提灯行列などで盛大にぎわう。 日出 11・27</p> <p>11・30 南座の顔見世初日。成駒屋、高砂家、高島家等の関西歌舞伎のみで開演。 日出 12・1</p>	
<p>この年</p> <p>▷ 活動写真は盛況だが、歌舞伎・落語・浪花節など一般興行は不振。<sup>(2)</sup></p>		

参 考	日 本
<p>(1) ピイェム公演社は、この京都大阪公演の後解散、伊庭孝は近代劇協会に復帰する。</p> <p>(2) 活動写真は固定客も増え変らぬ景気を見せている。各館は、客寄せの趣巧を凝らし、余興を入れての競争は激烈なものであった。その一因は、欧州の戦争のため良いフィルムが入手できないこともあったのである。</p>	<p>1・一 雑誌「歌舞伎」廃刊。</p> <p>1・一 三味線5世鶴沢文蔵没(62歳)。</p> <p>3・26 帝劇洋劇部、プランケットの喜歌劇&lt;古城の鐘&gt;〔コルヌヴィエウの鐘〕上演(～3・31、大4・5・26再演)。</p> <p>3・一 武者小路実篤&lt;その妹&gt;〔戯〕(《白樺》、大4・2刊、大5・3赤坂ローヤル館で舞台協会初演)。</p> <p>4・26 ツルゲーネフ作・楠山正雄脚色&lt;その前夜&gt;上演(帝劇、芸術座、～4・30、劇中歌、吉井勇作詞・中山晋平作曲&lt;ゴドラの唄&gt;流行)。</p> <p>4・26 中村吉蔵&lt;飯&gt;初演(帝劇、芸術座、～4・30、1月《太陽》に発表)。</p> <p>5・23 東京フィルハーモニー会、山田耕筰の指揮で、毎月1回の演奏会を始める(大4・2解散)。</p> <p>5・27 帝劇洋劇部、オッフェンバックの喜歌劇&lt;戦争と平和&gt;〔武無大将〕上演(小林愛雄訳詞、～6・2)。</p> <p>6・28 林和・13世守田勘弥ら文芸座を結成、第1回公演、林&lt;悪魔の曲&gt;、武者小路実篤&lt;わしも知らない&gt;(大3・1《中央公論》)上演(帝劇、～6・30)。</p> <p>6・一 谷崎潤一郎&lt;法成寺物語&gt;〔戯〕(《中央公論》。大9・10新富座で春秋座初演)。</p> <p>7・26 チューホフ作・伊東六郎訳&lt;桜の園&gt;初演(帝劇、近代劇協会、～7・31)。</p> <p>9・26 帝劇洋劇部、ズッベの喜歌劇&lt;ポッカチョコ&gt;(小林愛雄訳詞)上演(～9・30、&lt;恋はやさし野辺の花よ&gt;流行)。</p> <p>9・一 日本蓄音器商会(株)、偽作レコード氾濫をおさえるため、商標を&lt;ニッポノホン&gt;に統一、レコードは両面盤となる。</p> <p>12・一 幸田露伴作・右田寅彦改訂&lt;名和長年&gt;初演(帝劇、7世松本幸四郎・4世尾上松助ら)。</p>

京	都	府
<p>1・1～2・20 新派劇成美団の明治座公演。福井茂兵衛、小織桂一郎を中心に中村福之助、英太郎、都築文男、酒井欣弥、末吉春人らに松竹女優団の共演で人気を呼ぶ。 日出 1・7</p> <p>1・1～4・18 京都座久保田清らの連鎖劇大盛況の公演。 日出 4・17</p> <p>1・1 南座は石団次、多見之助、嵐吉、阪東秀調らの歌舞伎公演。1・22打上。 日出 1・12</p> <p>1・1 この頃、活動写真館「天活倶楽部」(野村芳国館主所在、開場日時は不明)。従来のみかど館が天然色活動写真(株)の経営となり改名開場。 日出 2・14</p> <p>2・4～8 芸術座の南座公演。島村抱月作「清盛と仏御前」、中村吉蔵作「真人間」、「与論」。 日出 1・30</p> <p>2・1 京都座の連鎖劇「観世の濁り」は、能楽片山家の折からの内紛を劇化して問題となり中止。興行場取締一層強化の契機となる。 日出 2・14</p> <p>3・1 歌舞伎座の璃徳、鰐四郎、海老十郎らの連鎖劇に静岡小次郎参加して、悲劇の富豪夫人愛子劇が人気を湧かす。 日出 3・1</p> <p>3・2 南座は左団次、寿美蔵、松蔭、荒次郎市十郎らに沢村宗之助一門を加えて開演。 日出 2・23</p> <p>3・2 五条警察署は新京極各種興行場の風俗取締強化。活動写真は実写の上検閲許可とする。<sup>(1)</sup> 日出 3・2</p> <p>3・1 片山九郎右衛門、片山家を離れ観世寿(ひさし)芸名元義の旧名に復して京都観世社として独立。 日出 3・3</p> <p>3・22～26 南座公演中の左団次らは休演の後自由劇場の関西初公演として、ゴージャス作「夜の宿」を公演。 日出 3・18</p> <p>4・5 東京音楽学校卒業生演奏会(三条青年会館)。 日出 4・5</p> <p>4・18 宮川町歌舞練場改築開場式。 日出 4・17</p> <p>4・21 島原の大夫道中、今年は古式により盛大に催される。 日出 3・19</p> <p>4・22 華道家元御幸遠州流薫風会発会式。家元2世群鶴園井上冷一風。 日出 4・23</p> <p>4・29～5・5 南座、花柳章太郎、藤村秀夫柳永二郎らの新日本劇団「母と子」公演。 日出 4・30</p> <p>5・2 祇園八坂神社は昨年の御大典に際し、官幣大社に昇格。盛大な昇格祭を催し奉祝踊りなどにぎわう。 日出 5・1</p> <p>5・31～6・21 東京市村座の6世尾上菊五郎一座10年振り南座開演。 日出 6・23</p>	<p>6・6 一条御前通西入る下る日本活動写真会社撮影場の写真仕上げ室の小火事。 日出 6・8</p> <p>6・30～7・7 今春3月横須賀で旗挙げした高木徳子一座、明治座で興行。 日出 6・30</p> <p>7・12～16 東儀鉄笛らの「無名会」南座で「マクベス」公演。 日出 7・3</p> <p>7・18 南座で興行の発声活動写真は入場者皆無のため興行打ち切。 日出 7・17</p> <p>8・17 新能楽南座に開演。<sup>(2)</sup> 日出 8・17</p> <p>8・1 明治座は松竹の手を離れて、天然色〔活動写真〕(株)の野村芳国のもとに9・1より1年の契約で経営される。天活では、これまで活動写真専門であったが、村田正雄、熊谷武雄、井上春之輔、池見成美、酒井政俊、辰見小太郎らで、純新派劇団を結成公演。同じく、休館中であった活動写真館パテー館も松竹より借り受けて経営。 日出 8・20</p> <p>9・23 金剛謹之助、今井栄次郎、高岡鶴三郎、福田喜三郎らと社中を集めて、「九曜会」を結成。金剛能楽堂で第1回を開催。 日出 9・19</p> <p>9・1 新京極三友倶楽部焼跡に、敷地主の大浦新太郎、加藤菊次郎、林栄次らは西陣京極の寿座をそのまま移転させて開場。 日出 9・24</p> <p>10・1 浮瑠璃師匠7代目竹沢弥七没す。8代目弥七は竹沢宗六が襲名。 大阪朝日 11・5</p> <p>10・31 南座公演の成美団に喜多村緑郎客員加入して開演。 大阪朝日 10・30</p> <p>11・1 今出川千本東入に座主川添政次郎の「大栄座」新築開場。 日出 11・5</p> <p>12・18 新京極朝日座で、中島楽翁らと共に楽天会を組織した初世渋谷天外(本名渋谷博喜智)、興行中の名古屋で肺炎死去。享年35歳。 大阪朝日 12・20</p> <p>12・20 パテー館、天活(天然色活動写真(株))の所属となり館内改築、31日より開場。 同上</p>	

参	考	日	本
(1)	<p>これまで活動写真各館主に対し、五条署は度々注意を促してきたが、弁士、科白士に対しても、次のような内容を含む8項目の通達を出して取締りを強化した。</p> <p>1、すべて説明は簡単明瞭にし、其要旨を失わざる様注意すること。</p> <p>1、勸善懲悪の鼓吹に力むる事。</p> <p>1、言語形容の賤劣野卑に渉らざる事。</p> <p>1、客席に出入し又は楽屋休憩室に観客を出入せしめざる事。等々、</p> <p>このような傾向の活動写真に対して、府下の各中学校、小学校は全般に観覧禁止の方針を執って指導にあたった。 日出 3・12、5・20</p>		
(2)	<p>新能楽については、新能楽松長社々長に川島万次郎。「新能楽は、地の謡に常盤津のみを入れたもの、長唄のみを入れたもの、両方を掛合わせたもの等があって、常盤津は主として舞の手の無い科白で行くものでしんみりした渋い所に用い、長唄は舞の手の多い、のりのつくものに用い、長唄物には安達ヶ原、鉄輪、安宅、舟弁慶、常盤津ものには、鉢の木、俊寛、蟬丸、藤戸。掛合には、小鍛冶、羽衣などで、…中略…何分にも常盤津長唄の軟いものを入れた上に型の本行を崩さずに行くのですから此間随分苦しい所もあります」。のように語っている。試みとしては真面目なものであったが、新境地を開くまでには至らず、結局問題とはされなかったようである。 日出 8・17</p>		
		1・1	岡村柿紅<棒しばり>〔長唄舞踊劇〕初演(市村座、6世尾上菊五郎ら)。
		2・1	岡本綺堂<番町皿屋敷>初演(本郷座、2世市川左団次主演)。
		3・18	市川齋入〔初世右団次〕没(天保14生、74歳)。
		5・1	菊池寛(屋上の狂人)〔戯〕(《新思潮》。大10・2、帝劇で2世市川猿之助ら初演)。
		6・17	小倉末子、音楽奨励会第22回演奏会で、ショパン<バラード>、ブラームス<ラプソディ>、ドビュッシー<前奏曲>など演奏。
		7・5	トルストイ作・林久男訳<闇の力>初演(芸術座研究劇、同劇団の試演場芸術倶楽部で上演、～7・9)。
		8・1	西川扇蔵(舞踊)の門弟喜代、春正派西川流の創立、西川喜州と改名。
		9・24	高田実没(明4生、46歳、新派俳優)。
		9・1	長与善部<項羽と劉邦>〔戯〕(《白樺》～大6・5、10月刊、大10・7、有楽座で研究初座演)。
		9・1	坪内道遙<女魔神>(《新演芸》、大15・3<役の行者>として築地小劇場で初演)。
		10・1	5月帝劇洋劇部解散に伴い、帝劇を去ったローシー夫妻、オペラコミック一座を組織、赤坂ロイヤル館で<天国と地獄>を上演、以後続々喜歌劇を上演。
		10・1	長唄3世松永和風没(80歳)。
		11・7	桃中軒雲右衛門没(明6生、44歳、浪曲師)。
		12・1	倉田百三<出家とその弟子>〔戯〕(《生命の川》～大6・3、6月刊、大8・8 創作劇場初演、大10帝劇で舞台協会上演)。

京	都	府
1・一 松尾志乃武、月村専一郎らの新派劇団が、第二京極の三友劇場に常打座付として開演。 日出 1・15	5・一 安達潮花、池坊から独立創流、飾花家を名乗り、第1回安達式盛花展(東京で最初)を東京築地本願寺に開催。 高いけばな	
2・3 京都座、天活の野村から松竹の手に戻り、小林商會が1年契約で借用して活動写真開場。 日出 2・4	5・31~7・8 喜劇義士廻家と東京中野女優団の合同劇、夷谷座に京都初興行。日出 6・4	
2・5 活動写真館朝日倶楽部を改造して、人形浄瑠璃の定席「竹豊座」開場。太夫は春子太夫を紋下として、時太夫、海老太夫、重太夫、三笠太夫、春雄太夫、古金太夫ら大阪連中を主に三味線は、豊沢新左衛門、榎之助、喜八郎、大造らの京都連中。人形は、吉田小兵吉、西川伊三郎、吉田辰五郎ら。上方 昭16・5、日出 1・26	6・7 岡崎公園に市公会堂竣工、落成式。 日出 6・7	
2・9 第一千八館、小林商會と松竹のもとに歩合興業。 日出 2・4	6・12~18 歌舞伎座に興行の高木徳子らに伊庭孝ら出演。 日出 6・12	
2・10 太田黒元雄近代音楽演奏會が吉田町大学キリスト教青年會館にて催さる。日出 2・8	6・25~7・4 新国劇、南座に京都初興行。沢田正二郎、倉橋仙太郎、金井謹之助、田中介二女優では、衣川弘雀、渡瀬淳子、久松喜世子らで「飛行曲」「新朝顔日記」「寝台列車」を開演。 日出 6・23	
2・23 松竹の直営となった歌舞伎座改築落成。松竹女優団と成美団との合同興行で開演。 日出 2・19	6・25 祇園甲部の川上流片山春子の弁天會、久方振りに八阪俱樂部に催さる。日出 6・27	
2・24 山田耕伴ピアノ作品発表音楽會。(三条青年會館)。 日出 2・8	7・4 改築中の福知山劇場常盤座落成開演式。 日出 7・4	
2・25 京大音楽部創立第1回演奏會。 京大音楽部沿革史	7・16 田中絹子没。75歳。 <sup>(2)</sup>	
3・一 南座公演後の吉田奈良丸、アメリカ公演のため渡米。 日出 2・26	9・22~24 豊沢広左衛門追善浄瑠璃大会と芸妓芝居が先斗町歌舞練場にて催さる。日出 9・19	
3・3 藤沢浅次郎(富小路御池下るに生れ、川上音次郎と共に、その名を成した)、東京浅草の自宅にて逝去。53歳。 日出 3・4	9・26 藪内家の10代竹翠紹曾没、78歳。 京の茶家	
3・3、4 祇甲の長唄大会。日出 2・27	10・6 近代音楽演奏會、三条青年會館においてピアニスト竹井夫人、奈良女高師教授渡辺鈺子、バイオリン矢野八重子らで開演。日出 10・5	
3・8 大宮通中立売上るの「末広座」出火焼失す。 日出 3・9	10・21 金剛能樂會秋季大会に、金剛謹之輔、金剛嚴親子の秘曲「石橋和合の連獅子」演ぜられる。 日出 10・23	
3・25、26 大江又三郎還暦祝賀能。三井溪泉、森本松園、南篁夫、中井秋月、大村梅軒、観世元義らを加えての大能樂。 日出 3・17	10・23 南座に佐藤紅緑の「日本座」公演。三笠萬里子らで紅緑作「孔雀草」上演。日出 10・25	
3・25 林中文字八を中心に常盤津研究会発足。第1回が美術倶楽部で催さる。 日出 3・27	10・28 観世清康七回忌追善能、遺弟元義により催さる。 日出 10・30	
3・一 この頃までに大4焼失の「大正座」再建されて連鎖劇を興行。 日出	11・3 国風會主催鈴木鼓村箏曲独奏會、岡崎公園公會堂東手楼上において開催。日出 11・5	
4・1 府警察部は府庁内に映写室を設置し活動写真フィルムの検査を興行前に実施。 <sup>(1)</sup> 日出 3・20	11・6~15 歌舞伎座公演の片岡松之助らの「義士劇」は、市川龍十郎、嵐伊三郎、片岡松幸、中村芝太郎、市川龍太郎らの面々。日出 11・2	
4・一 京極興業(株)設立。新京極における連鎖劇場および活動写真館のうち最も成績良好の帝國館を買収し、従来同様、日活と特約し新映画を優先的に封切興行。資本金125,000円。公募株800株(1株20円)。發起人、横田承之助、横田豊秋、小林寛吉、伊藤伊八、清水市之助、鈴木吉之助等等。 日出 4・10	11・17 岸沢古満佐によって宮川町常盤津研究会組織され、宮川町歌舞練場に第1回を催す。 日出 11・19	
5・9 華道専慶流の家元争裁判、桑原専溪第14世の正統と認められ勝訴。 日出 5・11	11・25 松響會主催の林喜右衛門7回忌追悼能樂會。 日出 11・24	

参	考	日	本
(1) 従来、五条署に一任されていた活動写真の取締りは、この年の四月より京都府警察部保安課において、菊池保安課長ら8名によるフィルム検査が実施されている。日出新聞中に見るその実際は次のようなものである。			1・一 菊池寛<父帰る>(《新思潮》、大9・10新富座で春秋座初演)。 2・17 青山杉作・木村修吉郎ら踏路社を結成、第1回公演、長与善郎<画家とその弟子>初演(芸術倶楽部、~2・18)。 3・3 藤沢浅二郎没(慶応2生、52歳、新派俳優)。 3・9 宝生九郎知栄没(天保8生、81歳、宝生流16世宗家)。 4・18 沢田正二郎・倉橋仙太郎ら新国劇を結成、第1回公演(新富座、~4・21。興行的に失敗し、京都・大阪へおもむく)。 5・29 初世藤蔭静枝〔静樹〕、新舞踊の会藤蔭會結成、第1回公演(日本橋常盤木俱樂部)。 6・24 桜間伴馬〔左陣〕没(天保6生、83歳、金春流シテ方)。 6・一 能役者宝生九郎没(81歳)。 7・23 初世若柳寿没(弘化2生、73歳、舞踊家)。 8・一 鈴木康義・英百合子ら、東京少女歌劇団を結成し、浅草三友館で公演。 8・一 久米正雄<地藏経由来>〔戯〕(《中央公論》。大8・2、明治座で井上正夫一座初演)。 9・一 泉鏡花<天守物語>(《新小説》。昭26・10、新橋演舞場で新派初演)。 10・9 竹本摂津大掾没(天保7生、82歳、義太夫節太夫)。 10・一 佐々紅華・石井漢ら東京歌劇座結成(9月)、新築開場した日本館(浅草オペラ常設館)で、紅華作<カフェーの夜>など上演。劇中歌<コロケの唄>流行。 12・17 山田耕伴、渡米。大7、カーネギー=ホールで作品発表會を開く。
	4 月	5 月	
無事認可	126	184	
一部切断	25	31	
説明を訂正して認可したるもの	8	4	
絶対禁止	3	2	
合計検査総数	152	204	
(合計数があるからと考えられる)重複するものがあるからと考えられる)それらの理由は、「道義の観念より見て」「不倫又は猥せつにわたるもの」「形容動作の賤劣」等の他に「爆発を応用して危害を加ふる恐れある」ものなどもあった。日出 5・11、6・28			
(2) 幼少より北村文子のもとに、三絃を学び、当時三味線の名手と謳われた。明治15以来、市立盲啞院の教師として活躍、東京音楽学校の山口教師など多くの人材を世に送った。			
ノ蓮女、市蔵、嵐徳三郎、璃瑠らに、芝雀改め3代目中村雀右衛門の襲名披露、松本幸四郎らを加えて大盛況。初日は午前2時に開場して午前5時には木戸閉場した。入場料は1等2円80銭、2等1円50銭、3等90銭、4等40銭。日出 11・24			
12・8 京都聖三一會主催で東京音楽学校教師のベツオールド夫人演奏會が三条青年會館に催さる。 日出 12・1			
12・8 裏千家12代又妙齋玄室没、65歳。 京の茶屋			
12・12 天活の野村興行部に貸与されていた明治座は再び松竹に戻り、小天勝一座の奇術により新春から興行。 日出 12・27			
この年 ▷ 久田家11代無適齋宗也、表千家惺齋の援助を得て久田家を再興。 京の茶屋			

大7(1918)年

京	都	府
<p>1・10～30 新京極帝國館にチャップリン大会。「チャップリンとスケート」「飛乗水雷」「チャップリンの銘酩」「安全第一」「チャップリンとデブ」ほか。 日出 1・10</p> <p>1・12～16 芸術座の南座公演。トルスイト原作「生ける屍」中村吉蔵作「帽子ピン」。 日出 1・6</p> <p>1・28 明治座で公演中の高木徳子、伊庭孝らの歌舞劇協会は、三の替りストリンダベリー作「犠牲」の上演禁止を「公安を害する虞あり」として命ぜられる。代ってウェデキンド作「出発前」半時間を上演。 日出 1・30</p> <p>2・7～3・30 天活第一劇団の新派連鎖劇歌舞伎公演。 日出</p> <p>2・11 林吉兵衛、林吉太郎会主となり先代吉兵衛の33回忌追善能楽会を金剛能楽堂に開催。 日出 2・8</p> <p>2・15 府警察部は、活動写真等の取締に対して、「興行物臨検之証」を発行。(主に弁士を取締るもので、私服臨検の場合に使用)。 日出 2・17</p> <p>2・24 明治座公演中の新国劇は劇団員のマラソン大会を催し人気を湧かす。 日出 2・27</p> <p>2・26～3・20 夷谷座に喜劇楽天会の創立15周年祝賀興行。 日出 2・23</p> <p>3・一 海江鉄五郎一行8年振りの東京喜劇を長谷座に興行。 日出 3・22</p> <p>3・20～5・29 山崎長之輔らの連鎖劇、静岡小次郎を加えて明治座で打ち続ける。</p> <p>4・1～30 都踊り、第50回目を迎えて開催。50回にちなみ「御社めぐり」に題材をとって伊勢の五十鈴川をひいて50の文字をきかす方法から「羯鼓踊り」など趣好を凝らす。 日出 1・25</p> <p>4・26 祇甲絃声会第16回開催。この年は「絃養会」として祇園に長唄の会が成立して20年に当る。 日出 大6・10、16</p> <p>5・1～25 石井漢、沢モリノ、杉寛らの東京歌劇団、夷谷座に公演。 日出 5・4</p> <p>5・18 野淵昶、田辺主計、行方薫雄、大島豊、川村正太郎ら同志社学生で組織されている「エラン・ヴィタール会」、同志社青年会館において、武者小路実篤作「未能力者の仲間」を演じて第1回試演会を催す。 日出 5・20</p> <p>5・22 エラン・ヴィタール会第2回試演会、「未能力者の仲間」「或る青年の夢」(同志社青年会館)。 日本新劇史</p> <p>6・1～7・30 熊谷武雄、山田九州男ら歌舞伎座公演。 日出 6・4</p> <p>6・5～19 南座6月興行、片岡我童、中村飛鶴、嵐吉三郎、実川八百蔵、市川古団次ら若手歌舞伎公演。 日出 6・5</p>	<p>6・20～25 福知山常磐座に市十郎改め市川眼玉ら若手歌舞伎公演。 日出 6・19</p> <p>7・24～8・3 南座に大阪文楽座の素浄瑠璃公演。竹本叶太夫は十数年振り。 日出 7・24</p> <p>8・5～8・20 市衛生連合組合主催による肥田博量らの通俗家庭劇協会の衛生連鎖教訓劇「命」南座で公演。 日出 8・5</p> <p>8・24 京都座、天活による直営となり松竹合名社と契約して興行。 日出 8・25</p> <p>9・7 明石紅雨らの東京創作劇協会、「白河夜話」(明石紅雨作)、「ベニス商人」を歌舞伎座に開演。 日出 9・6</p> <p>9・18～27 芸術座と河合武雄の公衆劇団との合同劇南座に公演。 日出 9・16</p> <p>10・12～25 徳三郎改め6代目瑠璃襲名披露、巖笑、我童、寿三郎らで南座興行。 日出 10・8</p> <p>10・13 丸太町三本木に観世能楽堂落成して舞台開き。<sup>(1)</sup> 日出 10・5</p> <p>10・13 華道家元専慶流楽習会は故桑原専溪宗匠1周忌追悼のため南禅寺金地院に法要と追善生花会を開催。 日出 10・7</p> <p>10・16 エラン・ヴィタール社は、成瀬無極、伊庭考らで「劇」の講演会を同志社青年会館に催す。<sup>(2)</sup> 日出 10・15</p> <p>10・17 野村三次郎50回忌追善能、金剛能楽堂に開催。 日出 10・18</p> <p>10・27 エラン・ヴァタル社第3回講演会が有島武郎らを迎えて京大キリスト教青年会館に開かれる。 日出 10・29</p> <p>11・2、3 旧嵯峨御所華道会京都本部は創立25周年記念插花大会を催す。 日出 10・30</p> <p>11・9 京都キリスト教青年会音楽部は、同青年会館にて関西連合大音楽会を、同志社大学グリークラブ、プリムローズクラブ、帝大三高キリスト教青年会、関西学院グリークラブ、高橋和一、西智恵子らによって開催。 日出 10・30</p> <p>11・15、16、17 エラン・ヴィタール社は、エラン・ヴィタール小劇場として第3回試演会を大丸楼上に会費30銭で公演。秋田雨雀作「少年の死」、同作「三ツの魂」。 日出 11・14</p> <p>11・17 大江能楽会10周年記念祝賀別会能楽を大江能楽堂に開催。 日出 11・17</p> <p>12・3～20 南座吉例顔見世興行。尾上多見之助改め3代目多見蔵襲名披露。雁治郎、梅玉、梅幸、幸四郎ら。 日出 11・24</p> <p>12・15 東京音楽学校助教授久野久子によるベートーベンのピアノソナタ独奏会が京大学生集会所に開かれる。 日出 12・27</p> <p>12・一 夷谷座椅子席の新装成る。 日出 12・17</p>	<p>この年</p> <p>▷ 山崎長之輔らの連鎖劇が人気をよぶ。 日出</p> <p>▷ 暮には流行性感冒のために興行街に痛手。 日出</p>

参	考	日	本
(1)	観世能楽堂は敷地282坪に舞台は230坪を費し東面で総検造6尺5寸1間の3間四方、橋掛は9尺巾の5間、床の高さ3尺、框より水引まで高さ1丈1尺、地謡座4尺巾という構造。見所は舞台の前と右に、最前は普通席(二人詰)で二行に79、その後に幕がかり(四人詰)で三行に60、簾の間(特等六人詰)は棧敷で下が18、二階は仕切が自由になり全体に勾配がある。二階には15畳の歌舞台など稽古場があり総工費は3万2千円。 日出 10・5	2・一	清水金太郎夫妻、東京歌劇座に入座し<天国と地獄>上演(日本館、Pf、沢田半吉<月光ソナタ>を演奏)。
(2)	この年、小人数のグループから講演会活動などを経て誕生した「エラン・ヴィタール小劇場」は新村出、有島武郎、成瀬無極三人を相談役、秋田雨雀、長田秀雄を顧問に得て、経済的にはともかく、公演の成功を重ね関西新劇界に少なからぬ影響を及ぼす。既記の5名の他に手塚竜麿、藤浦洗、佐野篤、佐藤芳資などで、女優には関西劇術研究会の奥野香之輔の娘奥野富佐子、行方薫の妹川路瑠璃や山下和子などがいた。 日本新劇史、日出 11・18	3・一	ローヤル館オペラ解散(2月)後、原信子歌劇団結成(田谷力三・秋月正夫ら参加)、第1回公演(浅草観音劇場)。
(3)	大正7年度市予算における課税率。遊芸師匠、定額年税12円。遊芸稼人一等(活動写真技師、弁士で年令15年以上の者・浄瑠璃・講談・祭文其他の遊芸稼人で座長又は座頭と唱える者)年税12円。二等(一等に属しない者)6円。芸妓 月税8円。酌人(雇女)月税3円。幫間 月税6円。相撲(行司共)年税2円。俳優 一等(座長又は座頭と唱える者)年税6円。二等(一等に属しない者)3円。演劇場及興行場、一等地、客席舞台楽屋其他営業場年税一坪迄毎に8円10銭。二等地、6円89銭。三等地、5円86銭。四等地、4円98銭。五等地、4円23銭。六等地、3円60銭。定設所以外に於て開場するもの、最高観覧料日税45人分。人寄席 一等地客席舞台楽屋其他営業場年税一坪迄毎に4円29銭。二等地3円65銭。三等地3円10銭。四等地2円64銭。五等地2円24銭。六等地1円90銭。定設所以外に於て開場するもの、最高観覧料日税45人分。遊技場(玉突)一等地年税玉台一台毎に30円。二等地27円。三等地24円30銭。四等地21円80銭。五等地19円60銭。六等地17円70銭。 日出 3・1	3・一	倉田百三<俊寛>〔戯〕(《白樺》、大10・3・4明治座で2世市川左団次初演)。
		5・25	東京音楽学校春季演奏会に、ベートーヴェン<交響曲第5番>を初演(クローン指揮、～5・26)。
		5・26	宝塚少女歌劇、東京初公演(<三人狼師>ほか、帝劇、～5・30)。
		6・2	ミロウィッチ(Pf)・ピアストロ(Vn.)、帝劇で演奏会(6・8、6・9、その後もたびたび来日)。
		7・6	プロコフィエフ、自作を交えたピアノ独奏会(帝劇、～7・7)。
		7・一	芸術座、松竹と提携する。9月ハウプトマン作・楠山正雄訳<沈鐘>ほか上演(歌舞伎座)。
		8・一	池田大伍<名月八幡祭>初演(歌舞伎座、2世市川左団次主演)。
		9・一	伊庭孝・高木徳子らの歌舞劇協会、有楽座で、<沈鐘>(伊庭孝作・竹内平吉作曲)、<カルメン>など上演。
		9・一	菊池寛<忠直卿行状記>(《中央公論》。大8・3・15有楽座で、13世守田勘弥ら文芸座初演)。
		10・3	有島武郎<死と其前後>初演(芸術倶楽部、芸術座、～10・7。大6・5《新公論》に発表)。
		10・一	義太夫6世豊竹岡太夫没(63歳)。
		この年	▷ 宝塚音楽歌劇学校開設。

京	都	府
<p>1・25 風俗研究会新設演芸部の時代風俗研究劇第1回試演会を大丸楼に催す。高安月郊作「嵯峨野の露」、会員の高谷仙外作「安藤広重」、管原伝授手習鑑「寺子屋の段」。 日出 1・22</p> <p>1・29 京都声楽会主催による東洋音楽学校卒業生・在学生と東京管絃楽団との合同音楽会が三条青年会館に開かれる。 同上</p> <p>2・一 歌舞伎座、松竹の直営となり椅子席を棧敷席に復旧し場内改築。 日出 3・3</p> <p>3・8 エラン・ヴィタール小劇場の定会員募集以来初めての小試演会を岡崎公会堂に催す。アイルランド劇グレゴリー夫人作「月の出」、成瀬無極作「藻の花」、チュホフ作「犬」を公演。 日出 3・10</p> <p>3・8～5・30 新装の歌舞伎座に扇雀、珥藏、石治丸、太郎、福太郎、小福らによる青年歌舞伎興行。 日出 3・13</p> <p>3・14～17 祇甲絃養会にならい明40・2 長唄研究のため創立した先斗町千代栄会の10周年記念大会。 日出 3・14</p> <p>4・5 学習院文学部音楽教師松島つね子主催による大谷政子姫追悼音楽会が、東京音楽学校のパウル・ショルツ、永井郁子らを招いて岡崎公会堂に催さる。 日出 3・23</p> <p>4・23～25 エラン・ヴィタール小劇場第4回試演会が三条青年会館に開かれる。会員組織で80銭会費。アンドレーフ作「人の一生」、チュホフ作「犬」、倉田百三作「出家とその弟子」。 日出 4・29</p> <p>4・29～6・28 夷谷座に伊庭孝を中心として歌劇部主任岸田辰弥、舞踊部主任高田雅夫、演劇部主任正国宏ら、以前高木徳子一座に属した者らの新星歌舞劇団を組織しての公演。 日出 3・9</p> <p>4・一 昨年度京都座に旗上げの三河屋荒五郎荒太郎一座と嵐璃徳一座との天活系二劇団の三葉合同劇は再び解散。 日出 4・29</p> <p>5・5～18 南座に延若、巖寛、璃寛、寿三郎、薙女、滝十郎らに小団次、宗之助の関東勢を加えて興行。 日出 5・13</p> <p>5・17 エラン・ヴィタール小劇場主催の脚本研究会が京大学生集会所にイブセンを中心に開かれる。「幽霊」の本読み。 日出 5・20</p> <p>5・18 福知山平吉座は日活の専属となり内部を改造、「電気館」と改称して活動常設館となる。 日出 5・14</p> <p>6・15～28 南座に鷹治郎、梅玉、璃寛、福助、魁車、市蔵、長三郎、薙女らの歌舞伎興行。 日出 6・12</p> <p>6・18～22 エラン・ヴィタール小劇場第五回試演会が三条青年会館に公演さる。山本有三作「津村教授」、シング作「谷奈」、グレゴリー夫人作「月の出」。 日出 6・3</p>	<p>6・29 大阪朝日、大阪毎日、日出などの新聞人関係を中心に「劇の会」の演劇観賞者研究同好会が発足。権威ある批評を目指す。 日出 7・1</p> <p>7・一 鹿児島少女歌舞伎若葉会、川畑勝子、川西秀子、穂積高子らの京都興行。 日出 6・26</p> <p>8・15 松竹の提唱に各興行場、寄席主が賛助して「睦み日」として南座、歌舞伎座、京都座、明治座など各活動写真館も無料開放、労働者とその家族とに一日の慰安を催す。<sup>(1)</sup> 日出 8・16</p> <p>9・1～15 南座、井上正夫、木下吉之助、花柳章太郎、藤村秀夫、吉田豊作、橋緑波、井沢恒夫らの新派劇公演。 日出 8・31</p> <p>9・21 劇の会、明治座公演中の成美団の観劇会を催し俳優らと共に合評会を開く。日出 9・22</p> <p>9・24～28 エラン・ヴィタール小劇場第6回試演会を大丸楼に公演。武者小路実篤作「二つ心」、シュミットボン作「街の子」。 日出 9・21</p> <p>9・26 京都座、松竹の直営館となる。 日出 9・22</p> <p>9・一 牧野省三、ミカド商会設立とともに第1回作品「都に憧れて」発表。 日本映画発達史</p> <p>10・3～17 南座、左団次、寿美蔵、松蔭、右団次の東西高島座の顔合せに多見蔵を加えて興行。 日出 10・2</p> <p>10・6、7 ロシア歌劇団、岡崎公会堂に「カルメン」「椿姫」公演。 日出 10・7</p> <p>10・15 京都大学マンドリン倶楽部第1回公開演奏会を開く。 日出 10・16</p> <p>10・17・18 エラン・ヴィタール小劇場、大阪土佐堀青年会館にて公演。この後さらに24・25日は神戸カフェオリエントにて公演。「街の子」「陽気な死」。 日出 10・17</p> <p>10・19 祇甲長唄絃声会第23回演奏会。 同上</p> <p>10・25～27 大江能楽堂改築竣工につき改築披露能楽会開催。 日出 10・14</p> <p>11・17 大谷大学の学生によって組織された純粋会の第1回試演会が三条青年会館で開かれ宗教劇「頼屯悪羅」「切支丹屋敷」を演じる。 日出 11・19</p> <p>11・20・21 エラン・ヴィタール小劇場と東京踏路社創作劇場との合同試演会が、鹿ヶ谷一燈園の西田天香の主催で岡崎公会堂に倉田百三作「出家とその弟子」を公演。 日出 11・22</p> <p>11・26 京都キネマ覚醒会生る。京極における各活動写真館付属の説明担当者らが、説明技術の改善、会員相互の親睦、品性の向上、興行主との親善を図らんと70余名にて発会。 日出 11・27</p> <p>12・8、9・10 エラン・ヴィタール小劇場、京都大学学生集会所において第8回試演会公演、有島武郎作「死とその前後」。 日出 12・10</p>	

京	都	府	日	本
<p>12・一 京都における劇愛好者の中から「普通劇場」なる劇団が誕生、純芸術劇と通俗劇との調和を目指す。 日出 12・23</p> <p>12・23 松竹は新春より夷谷座、明治座、京都座において、一等に限り座席指定制を始め、入場者を昼夜に画する方針を発表。 同上</p> <p>この年 ▷ 歌劇が流行し、連鎖劇も根強い人気。<sup>(2)</sup></p>	<p>12・一 13世守田勘弥、市村座を脱退（大7・12）、帝劇専属となる。</p> <p>5・1 中国の梅蘭芳一座、京劇を上演（帝劇～5・14。大13・10、昭31・5）。</p> <p>5・16 宮城道雄新作発表会（＜秋の夜＞＜唐砧＞＜若水＞など）。</p> <p>5・一 国木田独步作・真山青果脚色＜酒中日記＞初演（明治座、井上正夫ら）。</p> <p>6・16 畑中蓼坡・長田秀雄・岡本帰一らの新劇協会第1回公演、チェーホフ＜叔父ワーニャ＞初演（有楽座、～6・18）。</p> <p>7・11 ≪キネマ旬報≫創刊（田中三郎ら）。</p> <p>9・1 ロシア歌劇団、＜アイダ＞＜椿姫＞などを公演（帝劇、～9・15、9・21～24、大10・9、大15・3）。</p> <p>10・26 7世松本幸四郎らの新歌舞伎研究会第1回公演、岡本綺堂＜垂米利加の使＞ほかを上演（帝劇、～10・30）。</p> <p>10・26 梁田貞・弘田竜太郎・小松耕輔第1回作曲発表会（本郷追分青年会館）。</p> <p>11・26 文芸座第4回公演に＜ハムレット＞上演（帝劇、13世勘弥ら、～11・30）。</p> <p>11・一 行友李風＜国定忠治＞初演（名古屋末広座、新国劇。東京初演は大10・6、明治座）。</p> <p>12・6 国際活映（株）〔国活〕創立（大9・1、天活を買収）。</p>	<p>1・5 松井須磨子、有楽座の＜カルメン＞公演中、芸術倶楽部にて縊死（明19生、34歳）。同月、芸術座解散。</p> <p>2・19 芝葛鎮没（嘉永3生、70歳、雅楽家）。</p> <p>4・1 行友李風＜月形半平太＞初演（京都明治座、新国劇、大当り、～4・14）。</p> <p>4・3 菊池寛＜藤十郎の恋＞（≪大阪毎日≫～4・13、10月大阪浪花座で初世中村鴈治郎ら初演）。</p>	<p>参</p>	<p>考</p>
<p>(1) 「睦み日」は、以前大阪で松竹が主催した「さかえ日」に倣ったものだが、大阪の場合、浪花座、中座、角座、弁天座の松竹系のみで20銭均一の有料であった。その意味で、五条興業協会、五条興行組合の賛助を得て、活動写真館、寄席を含む点で、又無料開放という点で画期的なものであった。</p> <p>(2) この年、「風俗研究会」「純粋会」「普通劇場」と各々性格と主張とを異にして誕生してきたことは、エラン・ヴィタール小劇場の真摯な活動に影響されてと見ることができる。傍ら「劇の会」という批評グループの活動も顕著である。しかしこれらの諸活動は長くは続かない。「風俗研究会」自体は以前より存した。その演劇活動におけるそもその理念は、言語行動を含む時代風俗の実現にあったから時代考証の上では正確で見るべきものもあったが、演劇運動として新しいものはなかった。「純粋会」の主張は、「仏教主義を基調とし内心至奥の直生命たる芸術に到味すべく研究会及試演を以てその表現形式とす」で明らかであろう。他方「普通劇場」は、趣味人の集りであり、中心は横岡芦舟、日出新聞記者佐々木花紅、京都日々新聞記者奥野幸之輔らであったが、実際には次の年の7月一回の公演を持つに止まった。又発足した「劇の会」も、阪本青磁（大阪朝日）、神崎蠻楚桂（大阪毎日）、村上潔（時事）、平田江村、石井琴水、横岡芦舟、原田亥之助（日出）ら総数18名新聞人であった。この会の活動は活発であった。時には、南座開演中の延若の演技に注文をつけたりもし、合評会研究会を盛んに催したが、歌舞伎新派劇が中心である。</p> <p>さらに、この頃の芝居興行傾向としては、その水準は別として歌劇の流行があげられる。因に、この年京都を訪れた歌舞劇団は、高木徳子改め永井徳子歌舞劇協会、衣笠みどり歌劇協会、伊庭孝らの新声歌舞劇団、例年の如く宝塚少女歌劇、米国歌舞演劇団チャールズ・マルゲリス・ボードヴィル・コンサートカンパニー、東京オペラカンパ</p>				
<p>メニーと日本歌舞劇団の合同、ロシア歌劇団等の多きにのぼるが、ほとんどは夷谷座、京都座で興行された。</p> <p>その他京都では、やや衰えたとは云え、山崎長之輔、静間小次郎や山田九州男らの連鎖劇が興行され根強い人気を保っている。</p> <p>新京極遷誌 上、日出新聞</p>				

京	都	府
<p>1・23 風俗研究会新演芸部「新風俗劇団」の「源氏物語夕顔」劇の試演会が京都倶楽部に催さる。 日出 1・20</p> <p>1・26 観世元義没。 日出 1・28</p> <p>1・29 夷谷座、昨年8月より打ち続けた喜劇楽天会の興行を最後に活動常設館となし内外改装。松竹は小林喜三郎らの国際活映株式会社と提携。2・5イタリア映画「十字軍」にて開場。 日出 1・27、2・4</p> <p>1・一 ド・ミニヤール京都に移り、音楽奨励会結成し、指導を受ける計画。その基金募集演奏会を3・6都ホテルで開催(この計画、ド・ミニヤール間もなく京都を去り、実現不能)。 京都音楽史</p> <p>2・2 西陣署は、西陣大黒座において新劇俳優山本耕水らにより流行性感冒衛生喜劇「風の神」公演。 日出 2・2</p> <p>2・27・28 エラン・ヴィタール小劇場の第9回試演会が岡崎公会堂に久米正雄作「地藏経由来」、ドストエフスキー作「罪と罰」を公演。 日出 2・28</p> <p>3・7～21 南座に東京歌舞伎興行。帝国劇場の中村歌右衛門、八百蔵改め市川中車、市村羽左衛門、中村福助、尾上梅幸ら。 日出 2・25</p> <p>3・10 第二新京極の大正座、大勝座と改名。 日出 3・9</p> <p>4・7 南座に河合武雄ら新派劇公演。木下吉之助、村田式部、武村新、松葉文雄、東辰夫、松本要次郎、岩田祐吉、桜島昇、名越仙左衛門、川村桂一、高島松太郎ら。 日出 4・5</p> <p>4・11 「劇」の会主催の歌舞伎名所ハイキング。歌舞伎座出演中の秀郎、卯之助、延登満女らも参加。 日出 4・12</p> <p>4・12～16 エラン・ヴィタール小劇場同人の絵画展覧会が岡崎図書館で催さる。 日出 4・6</p> <p>4・24～25 東京白樺社同人の「白樺演劇社」関西第一回公演、ゲーテ作「兄妹」、ストリンドベリ作「稲妻」、武者小路実篤作「後に来る者」。三条青年会館。 日出 4・27</p> <p>5・1 風俗研究会第2回試演会は、神代風俗天平風俗、源平武家風俗、徳川風俗などを見せる「時代風俗劇」を岡崎公会堂に公演。 日出 5・3</p> <p>5・22 大谷大学純粋会は第2回試演会の直前に大学当局より解散を命ぜられる。代って「無名会」が大学とは無関係に結成され、武者小路実篤作「三和尚」、岡本綺堂作「ペラボウの始」、菊地寛作「敵打以上」を予定通り三条青年会館で試演。 日出 5・24</p>	<p>6・1～8 南座新文芸協会、(加藤精一、森英治郎、横川唯治、林千蔵、東儀鉄笛、秋元千代子、前田筆子、今村静子ら)、坪内逍遙作及演出の「法難」、久米正雄作「三浦製糸場主」を公演。法難では花道も使用した。 日出 6・6</p> <p>6・11～12 エラン・ヴィタール小劇場第10回試演会、岡崎公会堂に、ルーッツアー作「猛者」、武者小路実篤作「或る日の一休」、久米正雄作「牧場の兄弟」を公演。マチネーも試みる。会費特別2円、1等1円、学生50銭。 日出 6・6</p> <p>7・1～5 普通劇場第1回試演会。竹豊座に於てグレゴリー作「マクドナウの妻」、成瀬無極作「鴉」、岡本綺堂作「籠釣瓶」を公演。会費特等1円50銭、1等1円。 日出 6・26</p> <p>7・15 エラン・ヴィタール小劇場、同志社青年会館にて野外劇場を試み、懇談会を催す。松居松葉翻案「噂のひろまり」、中村吉蔵作「俄乞食」。 日出 7・17</p> <p>8・1～31 福井茂兵衛、伊川八郎、幾野武夫、伊東好郎、明石潮、衣笠みどりらの新声劇、明治座公演。 日出 7・31</p> <p>8・2～29 石井漢、沢モリノらの東京オペラ座歌舞劇団、夷谷座公演。 日出 8・1</p> <p>8・28 新京極パテー館は、日活系の直営となり、同館が旧朝日座の跡であるに因み朝日館と改名改築。京極土地興行会社の経営に移りキネマの常設館となる。 日出 8・28</p> <p>9・11～10・29 木村時子、笹本甲午、千賀海寿一、岩間百合子、藤村悟郎、明石須磨子、大津賀八郎、林正夫らの東京浅草金竜館根岸歌劇団は根岸興業部を離れ、ミナミ歌劇団と改称して夷谷座に公演。 日出 9・9</p> <p>10・5 改築中の新出水千本東入る「大栄座」は、市川左筵治一座により開場。 日出 10・5</p> <p>10・21～22 エラン・ヴィタール小劇場第11回試演会、岡崎公会堂に於てゴーゴリ作「検察官」秋田雨雀作「三つの魂」を公演。 日出 10・23</p> <p>11・21 フェニックス小劇場、同志社学生、青年画家たちにより結成され上七軒北野倶楽部に第一回試演会を催す。久米正雄作「梨花の家」、岡本綺堂作「京の友禅」。 日出 11・23</p> <p>11・24～28 素人劇団「啓明会」結成第1回公演、宮川町歌舞練場で創作宗教劇大河内岬作「小萩ヶ原」などを公演。 日出 11・30</p> <p>11・一 松竹京都撮影所設立。京都年鑑 昭37</p> <p>12・4～8 明治座に初めての映画興行、松竹キネマ合名社の第1回試作品「島の女」など興行さる。 日出 11・28</p>	

京	都	府	日	本
<p>12・8 西陣帝国館経営のもとに三条千本東入るに活動常設館「三条館」新設され日活系の映画を上映。 日出 12・6</p> <p>12・12 下京区大宮通七条下るの活動写真館「宝座」より出火、全焼す。 日出 12・13</p> <p>12・19、20 衣笠みどり、清水石之介らとムーランルージュ社の素人劇団は、「京都新生劇協会」を結成、三条青年会館にチェホフ作「熊」、メリメ作「カルメン」、シュミットボン作「ディオゲネスの誘惑」を旗上公演。 日出 12・21</p> <p>12・31 歌舞伎座は松竹キネマ合名社の活動常設館となり開場。松竹キネマ輸出作品「新生」などを上映。 日出 12・27</p> <p>12・31 都築文男、河原市松は新派劇団を組織、京都座に旗上公演。 同上</p> <p>12・一 活動写真常設館「京極館」が、新京極六角東南角に新築落成、元旦開場。 同上</p> <p>この年</p> <p>▷ フェニックス小劇場「啓明会」「京都新生劇協会」等の新劇団誕生。その各々の公演は「フェニックス小劇場」は、エラン・ヴィタール小劇場に似た傾向。「啓明会」は、市井の若い好劇家の集りで「芸術は宗教なり」と謳い、宗教劇で第一回公演は興行的に成功した。「京都新生劇協会」は、京都育ちの衣笠みどりらによって組織。</p> <p>▷ この年、夷谷座は、活動写真常設館に変わったが、5月に入ってから再び、新星歌舞劇団、東京喜歌劇団、東京少女歌劇団、東京オペラ座、ミナミ歌劇団と京都を訪れる歌劇団の専門劇場のようになり、映画の上映は4月までであった。歌劇の流行に目をつけた松竹の興行方針であろうか。</p> <p>注、素人劇団「啓明会」は、大10・1・12付日出新聞では「黎明会」として紹介されていて定かではない。女優不足から募集を試みたが、失敗し第1回で消滅している。</p>	<p>2・11 メーテルリンク作・楠山正雄訳「青い島」初演(有楽座、新劇協会、～2・17)。</p> <p>2・11 松竹、松竹キネマ合名社設立を発表(6月、蒲田撮影所完成)。11・1第1回作品「島の女」(ヘンリー小谷監督)封切。大10・4、帝活を買収し松竹キネマ(株)設立、同年5月、松竹キネマ合名社を買収。</p> <p>2・25 東儀鉄笛・加藤精一らの新文芸協会第1回公演。坪内逍遙(法難)ほかを初演(明治座、～3・9)。</p> <p>2・25 平田宗幸没(嘉永4生、70歳、金工家)。</p> <p>3・26 菊池寛&lt;敵打以上&gt;〔恩讐の彼方に〕初演(帝劇、13世守田勘弥主演、～3・30。大8・1&lt;中央公論&gt;に発表)。</p> <p>3・31 山田耕筰・近衛秀麿・石川義一、日本作曲家協会を設立。</p> <p>4・20 大正活動写真(株)〔大活〕創立、11・19第1回作品「アマチュア倶楽部」(谷崎潤一郎作、トーマス栗原監督)封切(有楽座)。大11・9・1松竹キネマと提携。</p> <p>4・25 吉井勇&lt;小しんと焉馬&gt;初演(有楽座、研究座第1回公演、～4・26。1月&lt;人間&gt;に発表)。</p> <p>4・一 長田秀雄&lt;大仏開眼&gt;(《人間》、昭15・2築地小劇場で新協劇団初演)。</p> <p>4・一 松竹蒲田撮影所設立。</p> <p>5・10 神戸の川崎造船所工員ら、日本労働劇団結成、罷業中に第1回公演(神戸劇場、～5・12。プロレタリア演劇の先駆)。</p> <p>7・10 中村吉蔵&lt;井伊大老の死&gt;(東京歌舞伎座で2世左団次初演。同月大阪浪花座で新国劇。4月&lt;早稲田文学&gt;に発表)。</p> <p>7・一 義太夫三味線6世鶴沢清七没(69歳)。</p> <p>9・一 能狂言井上菊次郎没(79歳)。</p> <p>10・25 2世市川猿之助、春秋座を結成、谷崎潤一郎&lt;法成寺物語&gt;・菊池寛&lt;父帰る&gt;初演(新富座、～10・27)。</p> <p>10・一 秋田雨雀&lt;国境の夜&gt;(《新小説》、大10・5明治座で新劇座初演)。</p> <p>11・27 本居長世・宮城道雄、新日本音楽大演奏会開催(有楽座、吉田晴風出演)。</p> <p>11・一 岡本綺堂&lt;小栗栖の長兵衛&gt;初演(明治座、2世猿之助ら、8月&lt;現代&gt;)。</p> <p>12・28 日本楽劇協会、ドビュッシー&lt;帰れる児&gt;、ワーグナー&lt;タンホイザー&gt;(第3幕第1、2場)上演(帝劇、山田耕筰指揮、～12・30)。</p>			

京	都	府
<p>1・15 「黒耀社」の第1回公演。先斗町歌舞練場に、菊地寛作「順番」、歌舞伎劇「千本桜鱈屋」、松居松葉作時代喜劇「堀川夜討」を上演。 日出 1・17</p> <p>1・一 松竹キネマは、歌舞伎座、京極館にツムプレックス映写機を設置。京極館は管絃楽団席を開設。 日出 1・18</p> <p>2・12・13 エラン・ヴィタル小劇場は、「生命座」と改称。第13回試演会を岡崎公会堂において開催。菊地寛作「父帰る」、トルストイ原作野淵飛脚他「生ける屍」を上演。 日出 2・3</p> <p>2・25 京極土地興行(株)は、第八回定期総会において、三条館、西陣帝国館、千本座、伏見活動写真館の買収を決定、「京都土地興行」と改名す。 日出 2・26</p> <p>3・6 第30回長唄絃声会開催。 日出 3・3</p> <p>3・18 京都キネマ覚醒会第4回総会催され、優良弁士を表彰。 日出 3・20</p> <p>3・20～21 京都薬学専門学校の学生を中心に組織された「青い鳥文芸協会」は、三条青年会館において第1回試演会を開き、「求めていた真実」「アラスカ奇談」「シップホテル」などの歌劇上演。 日出 3・22</p> <p>4・11～12 笹本甲午の「甲午生命社」は、岡崎公会堂に生命戯曲朗読会を催す。 日出 4・8</p> <p>4・14～16 生命座は第16回試演会にシェイクスピア作「ハムレット」、松居松葉作「マクベスの稽古」を岡崎公会堂に公演。舞台装置は、Edward Gordon Craig の美術演出理論に従った。 日出 4・12</p> <p>4・19～23 衣笠みどり、清水石之介、南敏夫らは、新劇と歌劇を標榜して「青春座」を結成、第1回公演を新京極竹豊座に「カチカチ山」改題「たぬきの仇討」、佐藤紅緑作「桃咲く村」など上演。 日出 4・21</p> <p>4・24 昨秋結成された「京都カナリヤお伽歌劇研究会」は、「カナリヤ演劇社」と改名、三条青年会館に第1回公演、創作劇「愛の力」、「放浪児」、歌劇「鬼の居ぬ間に」、秋田雨雀作「国境の夜」を上演。 日出</p> <p>4・一 京大音楽部音楽同好倶楽部、京都フィルハーモニーソサエティらは、深瀬潤一を指揮者に「京都フィルハーモニー・オーケストラ」を創立す(6・6第1回演奏会)。 京都音楽史、日出 4・27</p> <p>5・1～2 青い鳥文芸協会第2回試演会が、三条青年会館に「ペルス」、「津村教授」を公演。 日出 5・4</p>	<p>5・12 大勝館改名「オペラ座」は青春座の衣笠みどり、清水石之介、南敏夫、笹本光広らと東京の水野譲治、一条汐路、花川瑠璃子らにより専属歌舞劇団を結成、喜歌劇と新劇との常打ち小屋となる。 日出 5・13</p> <p>5・21、21 旧普通劇場の横岡芦舟、沖野桂之助らは「表現座」を結成、第1回試演会を岡崎公会堂に催し、秋田雨雀作「国境の夜」、岡本綺堂作「黒い外套の男」、シェイクスピア作「ベニスの商人」を上演。他に奥野みちみ、高原竹子、一色瑠璃子、静城夢生、北村幽谷、中村徹、三津木淳一ら参加。 日出 5・15</p> <p>5・一 本荘幽蘭改め本荘日蘭尼は、麩屋町二条上ルに「日本演芸通信社」を創立、「演芸通信」を月2回発行。 日出 5・1</p> <p>5・一 有志者らにより「京都映画革新協会」結成され事務所を京都童話研究会におく。 日出 5・22</p> <p>6・4 大宮七条下ル宝座は、京都土地興行株式会社により宝座(株)として再発足、活動営設館として改築竣工開場。 日出 6・6</p> <p>6・6 京都フィルハーモニー・オーケストラ第1回公演を岡崎公会堂に開催。「アルジェリア組曲」「瀕死の白鳥」などサン・サーンスを中心に上演。 日出 6・1</p> <p>6・9 2代目常盤津林中3回忌追悼演芸会が岡崎公会堂に催さる。 日出 6・10</p> <p>6・13～14 生命座の第17回試演会は、岡崎公会堂に谷崎潤一郎作「信西」、シュミットボン作「街の子」、チェホフ作「結婚式」を公演。 日出 6・12</p> <p>6・18～19 歌舞伎劇中心の素人劇団「しばいの会」結成され、第1回試演会を先斗町歌舞練場に催す。 日出 6・16</p> <p>6・26 両洋学院学生に依る学生劇が岡崎公会堂に第1回試演会を開く。 日出 6・28</p> <p>6・28 白樺演劇社から分立した岩淵甚四郎、秦真佐夫、岡村鏡子、春山哀三らの「青騎士小劇場」、岡崎公会堂に武者小路実篤作対話劇「釘を打つ音」、同作「画家と村長」、ストリンドベリー作「債鬼」を公演。 日出 6・24</p> <p>6・30～7・4 青い鳥文芸協会第3回試演会ホフマンスタール作「エレクトラ」等公演。 日出 7・4</p> <p>7・10 表現座の戯曲朗読会、メーテルリンク作「群盲」、近藤経一郎作「清盛と常盤」を朗読。 日出 7・12</p> <p>7・11 上七軒に長唄研究会「美成会」発足、第1回例会を北野倶楽部に催す。 同上</p>	

京	都	府	日	本
<p>8・31 宝座株式会社は本町塩小路にキネマ常設館「本町館」を新設、開館式。日活系を上映。 日出 9・2</p> <p>9・6 足立鶴子改め二代目松旭斎天華となる。 日出 9・5</p> <p>9・8 千本今出川上ル上善寺町浪花節常設館「広沢館」より出火全焼。 日出 9・9</p> <p>9・一 梅若了三郎家元となり、観世宗家から独立、梅若流を興す。 日出 7・28</p> <p>10・一 青鳥文芸協会は「青鳥劇」と改名。 日出 9・1</p> <p>10・28～29 生命座、松竹と提携して南座に第1回公演、田島淳「能祇」、ドストエフスキー作「罪と罰」。 大阪朝日 10・27</p> <p>11・3 伏見常盤館(座主内藤重造)増改築竣工、反対派落語により枯落し。 日出 11・3</p> <p>11・11 京都フィルハーモニー・ソサエティ第2回管絃楽演奏会を市公会堂に催す。 日出 11・11</p> <p>11・12～13 花村香郎、野淵昶、東堂荷村、堀口美郎らにより「映画芸術研究会」組織され、三条青年会館にドイツ表現派映画「アルゴール」上映。 日出 11・12</p> <p>11・23～24 生命座第20回試演、賀川豊彦作「死線を越えて」を市公会堂に上演。 日出 11・18</p> <p>12・15～16 生命座の研究劇公演、岡崎公会堂にダンサニー作「忘れて来たシルクハット」、武者小路実篤作「罪なき罪」を上演。 日出 12・15</p> <p>12・一 三友劇場とオペラ座は劇場を合併して改築竣工。三友劇場は新春より井上春之輔らにより、オペラ座は「相生劇場」と改称、ミカド歌劇らに依り枯落し。 日出 12・20</p> <p>この年 ▷ 年間の活動写真館入場 19館3,007千人、収入1,037千円。 日出 大11・2・15、府保安課調べ</p>	<p>2・26 平沢計七ら、南葛飾大島町五ノ橋館で民衆芸術研究会の援助による労働劇団第1回公演(「血の党与」、～2・28)。 2・一 倉田百三(布施太子の入山)〔戯〕(《改造》、大14・2帝劇で初演)。 3・20 榎茂都陸平作・原田潤作曲の群舞&lt;春から秋へ&gt;初演(宝塚春季公演、～5・20)。 3・一 山本有三&lt;嬰兒殺し&gt;初演(有楽座、7世松本幸四郎ら、大9・6《第一義》に発表)。 4・8 松竹キネマ研究所第1回作品&lt;路上の靈魂&gt;(村田実監督)封切。 4・29 &lt;虞美人草&gt;(松竹蒲田、ヘンリー小谷監督、栗島すみ子出演)封切。 5・16 アルト歌手シューマンハイнк独唱会(帝劇、～5・20)。 5・29 花柳章太郎・藤村秀夫・柳永二郎らの新劇座第1回公演、岩野泡鳴&lt;閻魔の眼玉&gt;を上演(明治座、～5・31)。 5・30 藤蔭静枝〔静樹〕、福地信世翻案&lt;思凡&gt;〔新舞踊〕を上演(有楽座、藤蔭第9回公演、～5・31)。 6・6 京都フィルハーモニー=オーケストラ第1回公演(深瀬潤一指揮)。 6・一 初世中村吉右衛門(3月市村座を脱退)松竹専属となり、里見淳&lt;新樹&gt;初演(新富座)。 6・一 牧野省三、京都に牧野教育映画製作所を創立(等持院にスタジオを竣工)。 7・一 梅若万三郎ら梅若流を創設。 9・一 山本有三&lt;坂崎出羽守&gt;(《新小説》。同月、市村座で6世尾上菊五郎初演)。 11・25 2世市川猿之助構成・振付の新舞踊&lt;虫&gt;初演(明治座、春秋座、～11・27)。 12・一 谷崎潤一郎&lt;愛すればこそ&gt;第1幕(《改造》、第2,3幕&lt;墮落&gt;《中央公論》大11・1。昭23・4、帝劇で初演)。 12・一 小山内薫&lt;第一の世界&gt;(《新演芸》。同月、帝劇で2世市川左團次ら初演)。 12・一 中里介山作・行友李風脚色&lt;大菩薩峠&gt;(第1編)初演(明治座、新国劇)。</p>			

京	都	府
1・1 京都座に公演中の都築文男、福井茂兵衛、五味国太郎、木下八百子らの新派劇「婦系図」は、正月3ヶ日総入場3,775人、上り高3,757円(日2回興行)の大人気。また南座の曾我廼家五郎一座は総入場1,643人、上り高3,356円(日一回興行)で、曾我廼家の南座興行の記録を作る。 日出 1・5		4・24~28 舞台協会劇南座公演(倉田百三作「出家とその弟子」一座は森英治郎、山田隆弥(旧横川唯二)ら文芸協会出身者)。日出 4・21
2・4 京都子供協会洋楽部と京都洋楽同好会、主催の洋楽演奏会、六角会館に催す。日出 2・1		4・26 牧野教育映画製作の「実録忠臣蔵」、第二京極南天活倶楽部で上映(忠臣蔵第1回は牧野監督指揮、第2回は松ちやん監督でこれは3回目)。日出 4・25
2・11 京大オーケストラ、瀬戸口指揮演奏会。 京都音楽史		4・29 京都高等工芸学校教授本野精吾による「音と色との交響楽」(京大学生集会所、音と色を結びけるカラーミュージック)。同上
2・18 清元相生大夫、巨松女、弥生女の松生会第2回演奏会が先斗町歌舞練場に開催さる。 日出 2・19		5・1 鴨川おどり開演(「歌三尊」、歌詞は倉田保之作、入場料1等2円50銭、3等1円)。日出 4・16
2・19 長唄千代栄会第9回演奏会が先斗町歌舞練場に開かれる。 日出 2・21		5・1 南座開演(右団治延若一座、「本朝廿四孝」ほか)。日出 4・30
2・26 長唄絃声会第36回演奏会が祇甲歌舞練場に開かれる。 日出 2・28		6・10 常磐津文字八披露開演(市公会堂、先斗町、上七軒等が応援)。日出 6・12
3・3 新舞鶴町で民衆音楽会創立予定(民衆文化の先駆として同好者数十名指揮者大岡竜夫)。日出 3・25		6・10 同志社大学英语協会の英語劇(三条キリスト教青年会館)。同上
3・3 長唄津宝美会結成され第1回演奏会が岡崎公会堂に開催。鳴り物六郷新五郎、石田貴市郎、長唄は杵屋六桃次、正七郎、源太郎、佐喜次郎、佐喜三、小川芳松ら。 日出 3・5		7・7~8 源之丞の「狐忠信」は珍劇で売切の盛況(三友劇場)。日出 7・20
3・25 富田碎花、照井栄三らにより「詩と音楽の会」結成され第1回講演会が三条青年会館に開催。 日出 3・27		7・10~14 伊藤痴友独演会(三友劇場、演目は「政変の裏面」、「明治維新の前後」、「奇人変人傑人」)。日出 7・10、11
3・25~26 生命座第21回試演会が岡崎公会堂に岡本綺堂作「仁和寺の僧」、アンドレーフ作「人の一生」、山本有三作「生命の冠」を公演。佐野篤、沖野京子、松江朝子、郡光子、島村哲郎らで舞台監督野淵昶、背景製作瓜生修三郎、幕内主任伊藤義亮。 日出 3・23、4・4		7・1 三派合同新劇、「叛逆の血」は維新当分の気分をだす(京都座)。日出 7・20
3・1 東京大歌舞伎(南座、仁左衛門の金藤次と歌右衛門の都歌舞伎、梅幸の知盛と羽左衛門の切れ与三が呼びもの。日出 2・24、3・6		8・12 奨励座狂言(京都座、新派劇「二つの命」、琵琶歌劇「松虫鈴虫」。日出 8・12
4・1 三友、相生両劇場は、京極演芸(株)の経営になり2館共通同一料金制を廃し分立興行となる。 日出 4・2		8・19~21 カーター氏の大魔術(南座)。日出 8・19
4・1~30 都おどり(題は「旭の御影」で各地の名勝を取入れ、とくに勅題「旭光照波」を二見浦にとる)。日出 4・3		8・1 夷谷座は、淡海劇の新作「妻君来」、明治座は新国劇「大尉の娘」。日出 8・10
4・10~13 宮津新浜の女将連、不景気盛り返えしのため素人芝居。 日出 4・8		9・16 若柳流舞踊大会(常磐津「式三番叟」市公会堂)。日出 9・16
4・21 音楽学校教授ショルツ演奏会(三条青年会館、ベートベンの作曲実現、これより任期おわり独へ帰る)。日出 4・23		9・30 長唄芙蓉会(富士田音蔵一派)公演(市公会堂)。日出 9・19
		10・1 南座東西大歌舞伎(山崎紫紅作「勢平家物語」、岡本綺堂作「心中浪華春雨」、「尾上伊太八」。日出 10・2
		10・5 厨川白村、日出講壇に「演劇は民衆的なるべきもの」との論をのせる。日出 10・5
		10・18~21 舞踊の名手アンナ・パヴロワ夫人南座公演初日に「瀕死の白鳥」、指定席10円。 日出 10・14
		11・1 新声劇「白禪隊」は連日好評(明治座)。日出 11・25
		12・3~18 南座顔見世狂言中村雁治郎大一座、梅幸、幸四郎、宗十郎加入屋の部「二葉葵」、「茨

参	考	日	本
		1・19	3世鶴沢清六没(明治4、55歳、義太夫節三味線)。
		2・26	5世中村福助を中心に新舞踊の会羽衣会結成、第1回公演。4世杵屋佐吉作曲<潯陽江>ほか上演(帝劇、~2・28)。
		4・15	沢田柳吉ピアノ独奏会<ベートーヴェンの夜>(工業倶楽部)。
		4・26	久保田万太郎<雨空>初演(有楽座、新劇座、~4・30。大9・7<人間>)。
		4・1	松竹楽劇部養成所(のち大阪松竹歌劇団)設立。大12・5・17第1回公演。
		5・1	ジンパリスト、バイオリン独奏会(帝劇、~5・5、5・19~5・21)。
		6・1	中内蝶二<大尉の娘>初演(明治座、井上正夫好演)。
		9・10	ロシアのパヴロワ舞踊団来日、公演(帝劇、~9・29。瀕死の白鳥など)。
		9・1	武者小路実篤<人間万歳>(《中央公論》、大14・3帝劇で文芸座初演)。
		11・1	ゴドウスキー、ピアノ独奏会(帝劇、~11・5)。
		11・25	坪内逍遙の指導による児童劇第1回公演(有楽座、~11・26)。
		11・26	7世尾上栄三郎・市川男女蔵〔3世左団次〕ら新舞踊の会踏影会第1回公演。香取仙之助作・弘田竜太郎作曲<生贄>など上演(市村座、~12・1)。
		12・30	女形の出演した最後の作品<京屋襟店>(日活、田中栄三監督)封切、これを契機に、日活の新派俳優13人退社。
		12・1	3世清元梅吉、5世延寿太夫と不和になり、梅吉派をたてる。
ノ木			「真人間」、「南部坂」、「大森彦七」夜の部「碁太平記白石嘶」、「お夏狂乱」、「宵庚申」、「釣女」。日出 大11・12・1、16
12・1			くれの興行盛況
歌舞伎座			映画劇「輝きの道」
夷谷座			渡辺お糸一行の「安来節」
明治座			新声劇「夜討曾我」
三友劇場			新喜劇相生会一派の替り狂言
など			日出 12・10、27

京	都	府
1・1～14 青年歌舞伎(明治座、中村扇雀、嵐瑠蔵ほか)。 日出 大11・12、26		5・17 歌舞伎座、ユーゴーの「噫無情」興行。 日出 5・17
1・12 新旧合同劇(京都座、狂言「俠客春雨傘」,「思いざめ」,弁天娘女男白浪)。 日出 1・12		5・27 清元師匠順花女の還暦祝賀演奏(公会堂)。 日出 5・12
1・13～2・26 淡海劇(夷谷座、狂言「野崎村が呼物」)。 日出 1・13、2・23		6・1 成美団開演(京都座、「金色夜叉」,「子は鎧」)。 日出 6・1
1・14 五郎劇狂言(南座、「拜領の紋服」など)。 日出 1・15		6・1～12 河合武雄の民衆劇(京都座、「移転の日」,「三人の母」,「夕顔の巻」)。 日出 7・1
1・～2・3 新派大合同劇(南座、「二つの道」河合、喜多村、伊井の顔合せは当分みられぬ)。 日出 1・31		6・17 京都音楽協会設立発会式。(11・27オーケストラ演奏会、瀬戸口指揮)。 京都音楽史
2・2 松竹キネマ12年度特作「二つの道」封切(歌舞伎座)。 日出 1・31、2・3		6・8～21 中村雁治郎一座の関西歌舞伎(南座5年ぶり、近松2百年興行、「二の橋、心中天網島」など。舞台意匠は竹内栖鳳担当)。 日出 5・31、6・21
2・3 新京極帝国館、3日から入場料値下げ(大人20銭、小人10銭)し、日活会社の全盛力を集中、日活力作「木下藤吉郎」も上映。 日出 2・3		7・20～22 市川猿之助の主宰する春秋座公演、「操り三番叟」,倉田百三作の「俊寛」,「橋弁慶」(南座)。 日出 7・17、22
2・10 新京極帝国館、松之助劇豊臣秀吉一代記など上映開始。 日出 2・9		7・23～28 曾我廼家五郎一派奨励劇開演(南座)。 日出 7・23
2・15 三条国技館、浪花節大会。 同上		8・1～12 納涼劇(南座、嵐吉三郎らにより怪談「乳房榎」)。 日出 7・29
2・16～22 歌舞伎座、ニコニコ大会、映画劇は松竹「死に行く妻」。 日出 2・15、22		8・17～20 文楽座人形浄瑠璃(南座、本極狂言は義経千本桜)8・20より替狂言。 日出 8・14
3・4 南座興行、中村福助、実川延若の顔合せで東京より阪東寿三郎、中村鶴蔵を迎える。新作の「西郷と豚奴」は大11・4 道頓堀浪花座で評判をとる(そのほか「文治の頃」など)。 日出 2・27、8・3		9・1～ 松尾志乃武一派興行(西陣劇場、「義理づくめ」)。 日出 9・1
3・5 中座弥生興行(雁治郎一座に尾上梅幸を迎える。「妹背山」,「汐見桜」,「土蜘蛛」,「椀久末松山」,「人買船」)。 日出 3・5		9・8 第二京極八千代館で映画「絶望の彼方」など上映。 日出 9・10
3・19 常磐津文字橋、京都常磐津橋会を組織、第1回披露目を岡崎公会堂で開演(東京から帰える)。 日出 3・11		9・10 関東大震災実況映画上映(歌舞伎座、夷谷座)。 日出 9・10
4・19 府警保安課、新京極三友劇場出演松尾志乃武の「廊の夜」は茶屋・遊子の内幕をだしたと禁止、(19日)、徹夜脚本書きなおし4・21開演。 日出 4・21		10・1～11 青年歌舞伎座興行(明治座、狂言は「紅葉山」ほか)。 日出 9・29
4・25 ゴドウスキー洋琴独奏会(公会堂)。 日出 4・26		10・21 東西合同女義太夫(新京極蘆辺館)。 日出 10・22
4・一 4月興行。 南座 ギルバード・サリバン喜歌劇団、シヨウの「チョコレート兵隊」など。 夷谷座 曾我廼家十郎と若柳弁天の狂言 明治座 青年歌舞伎一座「都おどり」 三友劇場 松尾志乃武劇 日出 3・30、4・11		10・一 淡海劇(京都座、「震災三日目」)。 日出 10・2
5・1～17 鴨川おどり。 日出 4・27		10・一 松竹の観劇料値下(明治座・夷谷座・京都座など)。 日出 9・29
5・1～ 五郎劇(南座、呼物は「面師の妻」)。 日出 4・30		11・1 新京極中座改め京都文楽座と改称(松竹合名社では中座を経営することになり、11・5より人形浄瑠璃開場。大阪文楽座が京阪に姉妹文楽座を設けを計画によるもの)。 日出 10・28
5・11～ 新京極中座上演「枯すすき」。 日出 5・12		12・1～16 顔見世(南座)「桜のもと」は食満南北の史劇物で梅玉在世中人気を博したもの、「安宅関」は榎本寅彦脚色、富樫は宗十郎、義経は魁車が附合う。 日出 12・1
5・15 清元研究豊声会第1回演奏会(公会堂)。 同上		12・1～13 東西新派合同(京都座、「故国の家」,「大瀬半五郎」)。 同上
		12・24 映画解説者の試験(警視庁、資格は許可の日から3カ年、京都景色の音読試験等もある)。 日出 12・23
		12・一 府警、新年興行の脚本や映画の検閲に忙殺(芝居は蒸し返して問題なし)。 日出 12・26

参	考	日	本
		1・26	カービ・イタリア歌劇団公演(帝劇、～2・4)。 日出 1・5
		1・一	鈴木泉三郎<次郎吉懺梅>(《劇と評論》、2月市村座で6世菊五郎ら初演)。
		2・7	竹柴其水没(弘化4生、77歳、歌舞伎作者)。
		3・1	小山内薫<息子>初演(帝劇、6世菊五郎ら、装置田中良、～3・22、大11・7《三田文学》に発表)。
		4・一	マキノ映画製作所(株)創立。11月マキノキネマ(株)となる(社長牧野省三、俳優阪東妻三郎ら)。大13・6、東亜キネマ(大12・12設立)と合併。
		4・一	山本有三<同志の人々>(《改造》、大14・3邦楽座で6世菊五郎ら初演)。
		5・1	クライスラー、バイオリン独奏会(帝劇、～5・5、5・18～5・20)。
		5・6	藤原義江、帰国第1回独唱会(神田青年館)。 日出 1・10
		5・31	<人間苦>(日活、鈴木謙作監督)封切。
		8・2	金剛謹之助没(安政1生、70歳、関西の能楽師、シテ方)。
		9・10	大震災のため松竹蒲田撮影所の大部分、京都下加茂に移る。11月、日活向島撮影所も京都大將軍に移る。
		10・17	沢田正二郎ら日比谷音楽堂で大震災罹災市民慰安の野外劇<勸進帳>ほかを上演、10・19新派若手俳優、演劇復興第一声と称し、牛込会館で<大尉の娘>上演、人気をよぶ。
		11・9	ハイフェッツ、バイオリン独奏会(帝国ホテル演芸場、～11・12、昭6・8)。
		11・10	水口被陽らによる日本映画俳優学校開校(～昭8・4)。
		この年	▷ 新内富士松加賀路太夫、4世岡本文弥を襲名、岡本派再興。

京	都	府
<p>1・2～16 吉・三・時・扇・市大歌舞伎(南)「一谷嫩軍記」「壺茶」など。 日出 1・5</p> <p>1・15 小倉宏、小倉舞踊音楽教場開場(国栗通大和大路東)。 日出 1・10</p> <p>1・20～2・3 昨春上場禁止になった「撰州合邦社」、検閲官との折衝で人形浄瑠璃として特別許可(文楽座)、静太夫吉弥、文五郎ら。 日出 1・22</p> <p>1・22 松竹劇場明治座より出火、盛り場一面を焼失(損害約100万円)、東西新派合同劇お名残り公演中。1・23市内松竹系各座・各館は休業。 日出 1・24</p> <p>1・一 劇の会、小劇場表現座を結成、第1回試演(市公会堂)、「カフェー女物語」など。 日出 1・18</p> <p>2・5～9 東西大歌舞伎(南座)、延若・雀右衛門・寿三郎・瑛蔵・福太郎ら、「楼吹雪」「水滸伝雪跳」など。 日出 2・8</p> <p>2・21～28 沢田正二郎一座(南座)「折伏の日蓮」(自作自演)など。 日出 2・21</p> <p>3・2～11 春秋座(市川猿之助主宰)第2回公演(南座)、八百蔵一座に片岡愛之助・尾上喜久太郎ら、「義民甚兵衛」など。 日出 2・27</p> <p>3・3～5 裏千家茶室「又隠」修復完成披露茶会。 茶の道50年</p> <p>3・18、19 河合ダンス、京都初公演(市公会堂)。 日出 3・14</p> <p>3・26 若柳流舞踊大会(市公会堂)「賤機帯」「子守」など。 日出 3・21</p> <p>4・23～28 女浄瑠璃、豊竹呂昇引退披露興行(南座)、「お俊伝兵衛猿廻し」など。 日出 4・22</p> <p>4・一 日米映画株式会社(社長新実八郎兵衛、丸太町土手町、資本金50万円)設立、欧米映画を輸入。 日出 4・14</p> <p>5・1～3 新民衆劇(沢田正二郎・倉橋仙太郎主宰)京都初公演(三条国技館)、「京の友禅」「嬰兒殺し」など。 日出 5・4</p> <p>5・6～29 関西大歌舞伎(南座)、吉三郎・扇雀・狂蔵ら、「日高川」「太功記尼ヶ崎」など。 日出 4・30</p> <p>5・7 西川一草亭門下、去風洞社挿花会(円山長楽館)。 日出 5・9</p> <p>5・8 大江勸正社下、上田勸声会創立10周年記念祝賀能(美術倶楽部)、「吉野夫人」など。 日出 4・26</p> <p>5・18 長唄六声会、第1回演奏会(八坂倶楽部)、「寒山拾得」「老松」など。 日出 5・18</p> <p>5・24、25 未生流家元片木松甫社中挿花会(北野倶楽部)。 日出 5・25</p>	<p>5・25 梅若一派能楽会(市公会堂)、「杜若」「安宅」など。 日出 5・23</p> <p>6・7～20 御成婚奉祝東西大歌舞伎(南座)雁治郎・幸四郎一座、「天衣紛上野初花」「やれ三味線」など、福助・魁車・長三郎ら。 日出 5・30</p> <p>6・30 東亜キネマ、マキノキネマ合併、東亜マキノキネマ設立(資本金320万)。 日出 7・14</p> <p>7・31～8・13 新声劇(南座)、山口俊雄、中田正造ら、「血染の瀑布」「金引の滝」「天の橋立」など。 日出 7・28</p> <p>7・一 松竹下加茂撮影所竣工(工費12万、258坪)。 日出 6・28</p> <p>8・5 裏千家、13世円能齋宗室没(53歳)。 京の茶家</p> <p>8・10 東亜キネマ、活動写真聯盟協会加入。 日出 8・12</p> <p>8・17～21 竹本津太夫、絞下披露大阪文楽浄瑠璃(南座)、「御祝儀の入船」「加賀見山草履打」など。 日出 8・14</p> <p>8・26 堀川興行会設立(堀川署管内各興行場主)、発会式(宝座)。 日出 8・28</p> <p>8・31 明治座の焼失にともない夷谷座(活動写真)を芝居小屋に改築開場(3月より着工)。 日出 8・22</p> <p>10・9～24 東西新旧合同歌舞伎(南座)、吉三郎・狂蔵・雁童ら、「天一坊」「鬼すずき」など。 日出 10・9</p> <p>10・31～11・13 関西大歌舞伎(南座)、我童・象三郎・紫香ら、「塩原多助経清鑑」「廊文章」など。 日出 10・26</p> <p>11・1 柳かね子独唱会(市公会堂)、4月に京都へ転居。 日出 11・1</p> <p>11・2 藤井翠諷社創立10周年記念祝賀能(京都倶楽部)。 日出 11・2</p> <p>11・10 御成婚奉祝大音楽会(市公会堂)、宮内省音楽部来演(37名、京都でははじめての大管弦楽)。 日出 11・4</p> <p>11・16 鴻鳳会創立10周年邦楽演奏会(市公会堂)。 日出 11・12</p> <p>11・19～12・2 文楽座1周年記念興行、文五郎・与五郎・与兵衛、「双蝶の曲輪日記」「玉藻前旭袂」など。 日出 11・19</p> <p>12・2 若柳吉兵衛、若柳流家庭舞踊会を結成、第1回発表会(市公会堂)。 日出 11・12</p> <p>12・2 松浦旅人舞踊第1回発表会、ダンスと舞踊の夕(市公会堂)。 日出 11・27</p> <p>12・3～18 吉例顔見世、東西大歌舞伎(南座)、雁治郎・福助・魁車に、羽左衛門・中車・梅幸ら、「長恨歌」「一谷嫩軍記」「八陣守護城」など。 日出 11・26</p>	

参	考	日	本
		1・一	《演劇新潮》創刊(山本有三ら、大14・6、第2次大15・4～昭2・9)。
		2・1	《清作の妻》(日活、吉田絃二郎原作、村田実監督、浦辺糸子ら出演)封切。
		2・7	水谷竹紫ら、水谷八重子を中心に芸術座を再興、第1回公演(＜ドモ又の死＞など。神楽坂牛込会館、～2・14)。
		3・18	3世竹本越路大夫没(元治2生、60歳、義太夫節太夫)。
		3・19	6世豊沢広助〔名庭絃阿弥〕没(天保13生、83歳、義太夫節三味線)。
		4・24	2世花柳寿輔らの花柳舞踊研究会第1回発表会(帝国ホテル演芸場、＜隅田の四季＞ほか、～4・25)。
		4・一	正宗白鳥<人生の幸福>(《改造》、10月帝国ホテル演芸場で新劇協会初演)。
		6・13	小山内薫・土方与志らの築地小劇場開場、第1回公演、ゲーリング作・伊藤武雄訳<海戦>ほか上演(～6・18)。
		8・14	《籠の鳥》(帝キネ、松本英一監督、沢蘭子ら出演)封切、以後小唄映画流行。
		8・一	鈴木泉三郎<生きている小平次>〔戯〕(《演劇新潮》、大14・6新橋演舞場で6世菊五郎ら初演)。
		9・一	真山青果<玄朴と長英>(《中央公論》。同月、邦楽座で同志座第1回公演に初演)。
		9・一	岸田国士<チロルの秋>(《演劇新潮》、10月帝国ホテル演芸場で新劇協会初演)。
		11・29	東京音楽学校48回演奏会でベートーヴェン<第9交響曲>初演(クローン指揮、東京音楽学校管弦楽団、長坂好子・曾我部静子・沢崎定之・船橋栄吉、～11・30)。
		12・15	会津八一<南京新唱>〔歌〕。
		12・25	木下利玄<一路>〔歌〕。
		この年	▷ 《キネマ旬報》優秀映画選奨開始。第1位芸術映画《巴里の女性》(米)・娯楽映画《幌馬車》(米)。日本映画は大15より。
↗		12・31	活動写真常設館壬生館(仏光寺通千本西入)開館。 日出 大14・1・12
		12・31	京都松竹座、新築開場披露(焼失の明治座の位置に活動写真常設館として竣工、鉄筋、4階、347坪)。 日出 12・26
		この年	▷ 仁和寺華道総司廟、旧御室御所御流に統合。 高いけばな

大14(1925)年

京	都	府
1・1～22 片岡松之助一派「赤穂義士伝」(南座) 荒太郎・瑛蔵ら。 日出 1・1		6・24 阪東妻三郎、東亜キネマを脱退、マキノプロダクションに入社。 日出 6・26
1・9 大日本華道美学会創立発会式(魚可楼)。 日出 1・9		8・1 支那女形名優緑特丹公演(市公会堂) 「拾黄金」「虹関関」など。 日出 7・31
1・11 民心作興琵琶演奏大会(市公会堂)、「那須与市」「筑後川」など。 同上		9・21 曾我廼家五九郎(京都座、10年ぶり) 「凄い酒」など。 日出 9・18
1・24～2・3 劇と舞台写真展(高島屋、出品300余)。 日出 1・28		10・2 浄瑠璃かたばみ会(従来、神戸だけで開催)、京都初公演(祇甲義太夫研究会・先斗町千鳥連・宮川町三輪連共演、市公会堂)。 日出 9・27
1・一 映画「罪と罰」(松竹座)、検閲(府保安課)で国情に不相当として部分的にフィルム切断。 日出 1・29		10・10 京都西洋楽器商組合設立披露第1回民音楽会(市公会堂)。 同上
2・10～25 東京歌舞伎中村吉右衛門一座(南座)、時蔵・三津五郎ら、「雅曾我助命敷皮」など。 日出 2・6		10・10～13 京舞井上流3世井上八千代(片山春子)米寿祝賀舞踊会(祇園歌舞練場)、これを機に公の舞台をしりぞく。 日出 9・21
2・一 牧野省三、東亜キネマを脱退、マキノキネマ再興。 同上		10・12、13 デニショウン舞踊詩団(アメリカ)公演(市公会堂)。 日出 10・1
3・1～22 関西大歌舞伎(南座)、右団治・荒太郎・福太郎ら、「五三桐真砂石川」「朧月春夜嘯」「若木仇名草」など(京都初公演)。 日出 2・27		10・20 一中節発祥地(御池堺町明福寺)に流祖都太夫追善、菅野派一派一中節演奏会(古典一中節の保存目的)。 日出 10・20
4・1～16 新進大歌舞伎(南座)、我童・義道ら、「天衣粉上野初花」など。 日出 3・27		10・一 アートクラブ芸術鑑賞の会(都ホテル内)発足(毎月1回例会)。 同上
4・18～26 沢田正二郎一派(南座)、「時の氏神」「槍持定助」など。 日出 4・18		10・一 京都ドラマリーグニュース創立(仲町丸太町下ル、代表者木夢現)、同名機関紙月2回発行。 日出 11・26
4・一 聯合映画芸家協会創設 <sup>(1)</sup> (御室撮影所)第1回参加作品「月形半平太」(沢田正二郎主演)。 日出 4・5		12・1～16 吉例顔見世(南座)、雁治郎・福助・魁車・長三郎ら、「小豆島」「一つ家」「碁盤大平記」など。 日出 12・13
5・1～3 新派菊水、団長青木元二郎引退記念興行(三条国技館)、「五寸釘寅吉」など。 日出 4・27		12・4 マルシュェックス(仏)ピアノ演奏会(市公会堂、主催、京都音楽協会)。 日出 12・3
5・1～30 曾我廼家五郎一座(南座)、蝶六・笑将・蝶八ら、「馬曳翁」「童謡の一節」など。 日出 4・29		12・22 祇甲長唄練習第1回演奏会(八阪倶楽部)、隔月開催予定。 日出 12・22
5・8、9 日露交驩交響管弦楽大演奏会(松竹座)、チャイコフスキー「悲槍」など。 日出 4・26		12・22 マキノプロダクション、日活と合併。 日出 12・24
5・26 長唄紫好会第10回演奏会(市公会堂)杵屋佐吉社中に富士田音蔵・杵屋寒玉ら出演。 日出 5・25		12・一 弥栄館(西陣・島原)上映予定映画「ジゴマ」(ポーリン)、府保安課より上映禁止処置(内務省検閲済)。 日出 12・3
6・1～15 沢村訥子一座、10数年ぶり来演(夷谷座)、「三人吉三巴白浪」など。 日出 5・30		この年 ▷ 映画「恩讐の彼方に」(東亜甲陽)「街の手品師」(日活京都第二部)「影法師」(前後篇)(東亜マキノ等持院)「心中宵待草」(東亜マキノ等持院)「月形半平太」(連合映画芸術家協会等持院)「日輪」(マキノ連合映画芸術家協会)「荒木又右衛門」(日活大將軍)。
6・7 裏千家6世六閑齋200年、10世認得齋100年忌法要茶会(大徳寺)。 茶の道50年		
6・9 東亜キネマ等持院撮影所、小道具部屋など放火により焼失。 日出 6・12		
6・14 観世流大江又三郎、竹雪と改名、披露祝賀能楽会(大江能楽堂)。 日出 5・20		
6・15 女流舞踊競演会(市公会堂、主催、歌舞興会)、6年ぶり再開。 日出 6・13		
6・17 常盤津2世林中7回忌追悼演奏会(市公会堂)。 日出 6・19		

参	考	日	本
(1) 文壇劇場関係の一流の人々に映画界の長老を加へた新しき映画製作協会が生まれ出た。それは連合映画芸術家協会といふので内部の組織は、		1・23 藤間勘翁〔2世勘右衛門〕没(天保11生、86歳、邦舞)。	
文芸部 里見淳、岡栄一郎、久米正雄、白井喬二、菊池寛		1・一 真山青果<平将門>(《中央公論》、昭2・2本郷座で井上正夫ら初演)。	
演技部 沢田と其一党、猿之助の春秋座、新劇協会、沢村長十郎一座、市川八百蔵一座		2・13 <街の手品師>(日活、村田実監督、岡田嘉子ら出演)封切。	
監督部 久米正雄、畑中蓼坡、高田保、牧野省三		3・一 山田耕筈・近衛秀麿らにより日本交響楽協会結成(大15・9月分裂)。	
装置部 田中良		4・1 新橋演舞場開場、新橋芸枝による第1回<東おどり>公演。	
技術部 宮崎安吉		4・26 日露交驩管弦楽演奏会(歌舞伎座、指揮山田・近衛、～4・29)。	
経営部 立花寛一、直木三十三	日出 4・5	5・一 岸田国士<紙風船>〔戯〕(《文芸春秋》、大15・5青い鳥劇団初演)。	
		5・一 《映画評論》創刊(佐々木能理男ら)。	
		7・1 新橋演舞場でド・フォレストの試作トニー、フォノフィルム公開。	
		8・13 ヒューズ作・小山内薫訳、演出<炭坑の中>〔ラジオドラマ〕放送。	
		9・26 2世河原崎長十郎らの心座第1回公演(築地小劇場、～9・28)。	
		10・10 シルマルシュェックス、ピアノ独奏会(仏交換使節、帝国ホテル演芸場)。	
		10・26 日本青年館の開館式に郷土舞踊と民謡の会開催、以後恒例となる。	
		11・15 池内信嘉《能楽盛衰記》上能(能楽会、大15・5・20下)。	
		12・6 日本プロレタリア文芸連盟〔プロ連〕、同演劇部〔トランク劇場〕結成。	
		12・一 木村錦花作・竹柴兼三脚色<研辰の討たれ>初演(歌舞伎座、猿之助ら)。	
		この年 ▷ 時代劇映画製作さかん。3月直木三十五ら連合映画舞家協会設立。6月牧野省三、東亜より独立、マキノプロダクション設立。9月阪東妻三郎、独立プロを起す。 ▷ 築地小劇場、ピランデルロ・オニール・シング・ロマン=ロランなどの作品を上演(大13・～)。	

京	都	府
1・15 尾上プロダクション第1回作品、池田富保監督、尾上松之助主演「赤城嵐国定忠次」封切。 日出 1・14		5・6 テノール歌手松山芳野里独唱会(市公会堂)。 日出 4・27
1・28~30 文楽座、竹本文字大夫襲名披露興行(京都座)、「菅原伝授手習鑑寺子屋之段」など。 日出 1・27		5・19 長唄都久美会発会(杵屋六次の門下)。 日出 5・22
1・31~2・29 淡海劇、新作狂言をそろえて興行(夷谷座)、「初子」「志賀寺上人」など。 日出 1・31		5・一 専慶流、16世松声軒専慶(西阪弘堂)没(58歳)。 高いけばな、専慶流いけばな
1・一 桐蔭会発足(豊太閤の遺徳を顕彰)、昭4・5今日庵、豊国神社に桐蔭の席を寄進、以後毎年2回献茶式。 茶の道50年		6・1~15 続東京大歌舞伎(南座、左団次・寿美蔵ら「楠正成」「三人片輪」など。 日出 5・24
2・2 京都市国立音楽学校設置委員会、設立促進について協議、17日政府と交渉、本年度は見送り。 日出 1・30		6・2 華道、西川一草亭、花堂一時庵(東山区浄土寺町)落成生花会。 日出 5・31
2・4 祇園甲部歌舞会長尾田木ゆう子没、81歳。 日出 2・6		6・6 京大オーケストラ、エマヌエル・メツテル指揮、演奏会(市公会堂)。「ベートーヴェン、交響曲第5番」。 京都大学音楽部沿革史
2・7 阪東妻三郎、松竹専属第1回作品「尊王」封切(歌舞伎座)。 日出 2・7		6・13~15 ロシア舞踊エレナ：パヴロバ大舞踊音楽会(三条青年会館)。 日出 6・13
2・21 凌雲社10年記念能(金剛能楽堂)。 日出 2・21		6・22 改築中の先斗町歌舞練場上棟式。 日出 6・22
3・2~16 東京歌舞伎(南座、中村吉右衛門、三津五郎、三升ら)、「矢の根」はじめて地方で公演。 日出 2・25		6・22 東亜キネマ後援会(5月発会、事務所河原町蛸薬師下ル蝶屋内)第1回鑑賞会「荒城の歌」。 日出 6・18
3・6 能、観世流、井上祥次郎没(36歳)。 日出 3・7		6・22~28 文楽座引越素浄瑠璃(南座)、竹本可美太夫、豊汚仙竹ら。 日出 6・18
3・15 長唄絃声会50回記念特別演奏会(市公会堂)。 日出 2・7		6・27 鳴物教師、福富政之助3代目六師新平襲名披露芸芸大会(市公会堂)。 日出 6・14
3・19 新舞踊、榎茂都流(陸平)初公演(市公会堂)。 日出 3・20		6・28 杵屋佐吉洋行、長唄紫好会送別演奏会(市公会堂、寒玉、六左衛門ら)。 日出 6・23
3・25 エメルカ映画の夕(都ホテル内)設立、毎年25日を例会としてエメルカ映(ドイツ)を観賞。 日出 3・25		7・15 常盤津研究会みどり会、発会披露演奏(宮川町歌舞練場)「式三番叟」「三保の松」など。 日出 7・15
4・3 東亜キネマ撮影所(右京区等持院北町)、小道具部屋、女優部屋焼失(損害20,000円)。 日出 4・4		7・一 活動常設永楽館(西堀川上長者町下ル、400席、2階)開館。 日出 4・16
4・7 玉村歌路、国精劇を解散、蝙蝠座を復活旗上げ公演(西陣劇場、池内清峰、川上謙太郎ら)。 日出 4・9		8・15~11・28 山口俊雄・伊川八郎・渡瀬淳子・村田栄子ら新劇団を組織、旗上げ公演(京都座)、劇団名公募「新潮座」と決定、3カ月余続演(「踏切番」「権人の生涯」など)。 日出 8・15
4・11、12 グランドオペラ伊太利大歌劇団(南座)。 日出 4・12		9・1~10 舞台装置研究連盟主催、舞台模型映画セット展(高島屋)。 日出 12・20
5・1 八代演能会、第1回公演(大江能楽堂)。 日出 5・1		9・3~5 五色座京都初公演(南座)、林長三郎・蝦十郎ら、小寺融吉作「真間の手児奈」など。 日出 8・25
5・1~11 関西歌舞伎(南座、我童・巖笑ら)「釣女」「和田合戦女舞鶴」など。 日出 4・29		9・11 尾上松之助(本名中村鶴三、通称目玉の松ちゃん、西堀川丸太町上ル)没(50歳)、16日、日活社葬。 <sup>(1)</sup> 日出 9・12
5・2 阪東妻三郎プロダクション開所(右京区太秦)。 日出 5・2		9・15~24 石団次・卯三郎・寿三郎ら若手による歌舞伎大一座(南座)、「真如」「大杯腹酒戦強者」など。 日出 9・8
5・2 尺八都山流30周年邦楽管絃演奏会、「黒かみ」「千鳥の曲」など(高蚕校)。 日出 5・1		9・19 日活関西撮影、尾上松之助の死を転機に会社経済の確立を目的に新劇部宮部静子ら50余名解雇。 日出 9・21

参	考	日	本
(1) 岡山市朝日座へ尾上多見蔵一派が来た時に子役として舞台に出たのがそもそも俳優生活をする動機をなしたものである、その時寺子屋の菅秀才に扮し子役として梨園に認められた。映画界に入ったのは明治42年で横田商会(日活の前身)が創立された同年の9月であった。第1回の作品は「碁盤忠信」である。それまでには西陣千本座を根城としていた、マキノ省三氏と共に横田商会に入ったものである。昼は撮影をなし夜は千本座に出演し爾来活動写真の流行の熾烈につれ松ちゃんの名は年と共に盛んになって行った。千本映画の内超大作は忠臣蔵と荒木又右衛門だ、そして最後の出演は俠骨三日月である。		1・7 文芸家協会結成(大10・7・16設立の小説家協会と大9・5・8設立の劇作家協会の合同による)。	
		1・24 日本交響楽協会第1回予約演奏会(日本青年館、近衛秀麿指揮、<英雄>)。	
		1・27 高野辰之<<日本歌謡史>>。	
		1・一 武者小路実篤<愛慾>(《改造》、7・1~7・13架地小劇場で初演)。	
		1・一 ロスタン作・額田六福翻譯<白野弁十郎>初演(邦楽座、新国劇)。	
		2・27 トランク劇場、共同印刷争議応援に長谷川如是閑<エチル・ガソリン>、武者小路<或る日の一休>上演(〜2・28)。	
		2・一 正宗白鳥<安土の春>(《中央公論》、3月新橋演舞場で2世左団次ら初演)。	
		3・21 築出小劇場最初の創作劇として坪内逍遙<役の行者>初演(〜4・11)。	
		5・2 マッコーマック(アイルランド)独唱会(帝劇、〜5・10・6・13)。	
		5・8 宝塚温泉場内に坪内士行ら宝塚国民座結成、第1回公演。	
		5・一 藤森成吉<磯茂左衛門>(《新潮》、6月浅草松竹座で井上正夫ら初演)。	
		6・23 東京音楽学院設立認可(昭22・7国立音楽学校と改称)。	
		6・一 <<歌舞伎研究>>創刊(〜昭3・11)。	
		7・一 岡本綺堂<権三と勘十>初演(歌舞伎座、15世羽左衛門・2世左団次)。	
		9・24 <狂った一頁>(衣笠映画連盟、衣笠貞之助監督、無字幕映画)封切。	
		10・5 近衛秀麿、新交響楽団「新響」結成、10・22第1回発表会(日本青年館)。	
		10・29 <足にさわった女>(日活、阿部豊監督)封切。	
		11・26 モグレフスキー、バイオリン独奏会(帝劇、11・30、昭2・1・30~1・31)。	
		12・6 千田是也らの前術座第1回公演、ルナチャルスキー作<解放されたドンキホーテ>上演(築地小劇場、〜12・8)。	
		12・一 岸田国士<驟雨>初演(帝劇、5世沢村田之助ら、11月《文芸春秋》)。	
		この年	
		▷ 武者小路千家、官休庵火災腐朽のため改築復元。 京の茶家	
		▷ 映画「京子と倭文子」(連合映画芸術家協会)「紙人形春の囁き」(日活大將軍)「日輪」(前篇)(連合映画芸術家協会)「天一坊と伊賀亮」(マキノ御室)「日輪」(前後篇)(日活大將軍)「狂恋の女師匠」(日活大將軍)「陸の人魚」(日活大將軍)「足にさわった女」(日活大將軍)	
10・6~12 豊竹昇之助一座、素浄瑠璃(南座)「御祝儀室の入船」など。 日出 10・1		10・18~ 新国劇沢田正二郎一派、真山青果作「富岡先生」など。 日出 10・14	
10・25 真下滝吉(飛泉)没(京都市市会議員、軍歌「ここはお国」の作者、49歳)。 日出 10・26		10・27 京都市教育会創立25周年記念音楽会(公会堂)、弘田亀太郎作曲「よろこび」など。 日出 10・29	
10・31~11・9 井上正夫一派(南座)「或る日の兄弟」「殉死」など。 日出 10・27		11・23、24 華道家元、桑原専慶流諸国直門挿花大会(公会堂)。 日出 11・21	
12・1~16 吉例顔見世東西大歌舞伎(南座)雁治郎・市蔵・吉三郎ら、「東山物語」「戻橋」「菅原伝授手習鑑」など。 日出 11・27		12・7 京都芸術研究会創設記念発表会(市公会堂)、琵琶・琴・浄瑠璃など。 日出 12・7	
12・19 大正天皇病氣平癒祈願のため、興行物一斉休演。 日出 12・20			